

# 相国寺御用達

## 京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおりました。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子司 俵屋吉富

本店 京都市上京区宝町通上立売上ル

電話 (075) 432-2211

烏丸店 京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 (075) 432-3101

# 圓明

平成二十七年 正月号(第一〇三号)



大本山相国寺  
相国会本部

# 賀正

平成二十七年 乙未



まるにくん  
© 2014 相国寺

◆表紙解説

平成二十六年九月二十七日に開催された  
「第一教区合同御親教」で法話中の有馬管長

写真撮影◎柴田明蘭氏

## 歳旦祝語

管長 大龍窟 有馬頼底

平成二十七年

歳旦

宗旨の商量、又た奈何

新年特に覚ゆ、鬢辺の皤きことを

黄鳥侍つ者、暮星の間

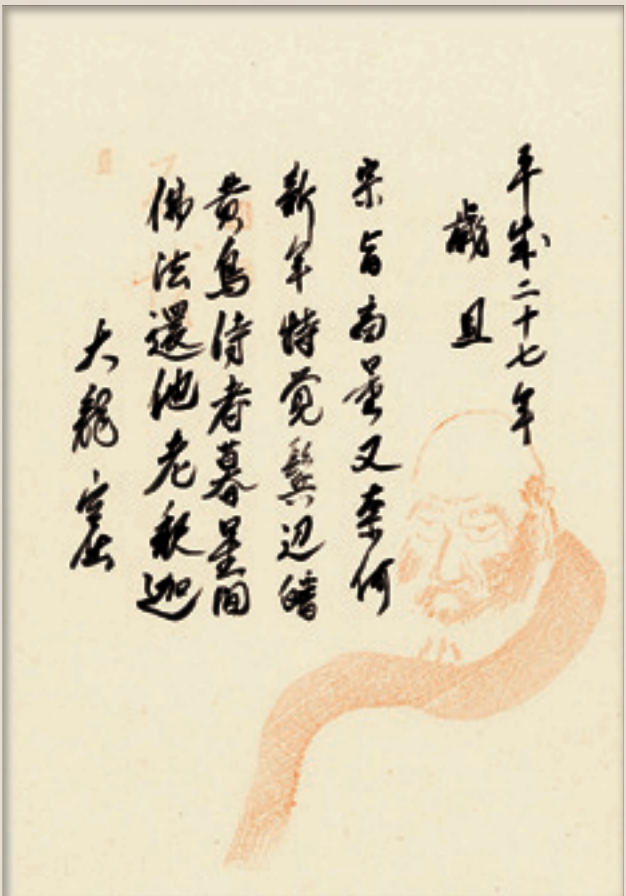
佛法、還つて他の老釈迦

大龍窟

禅の宗旨は、又たどうだろう

新年になって、鬢の白さが目立つ

うぐいすの春を待つは、晩冬のこと  
さて佛法は、かえって釈尊のみか。



平成二十七年

歳旦

宗旨商量又奈何

新年特覚鬢辺皤

黄鳥侍者暮星間

佛法還他老釈迦

大龍窟



第一教区僧侶、各塔頭役員、寺庭婦人と共に記念撮影



有馬管長と記念撮影する檀信徒たち

平成26年9月27日  
第一教区合同御親教  
於相国寺大方丈

写真撮影◎柴田明蘭氏



管長法話



室内外に詰めかけた多くの檀信徒



「鳴き龍」聞こえました



開式前には法堂をご覧頂いた



法話に感激の参列者と握手の一幕も



会場は和やかな雰囲気にもまれた



受付



法堂拝観



矢野教学部長挨拶



佐分宗務総長挨拶



共に諷経をする檀信徒



法要



本派全寺院を代表し大通院小林老大師より謝辞



相国寺総代片岡匡三氏による謝辞



世界平和について説く管長



記念品をうける大通院小林玄徳老大師



作法に従って食事をいただく



方丈縁側で希望者は自主的に夜坐(やざ)



慈照寺 国宝「銀閣」を方丈より望む



原田正俊教授による講義



多くの意見が聞かれた僧侶との車座意見交換会



慈照寺 国宝「東求堂」特別拝観



管長と共に熱心に調経をする研修生



小林老大師の提唱を拝聴



閉講式で有馬管長より御垂訓をたまわる



大書院にて坐禅



坐禅の間に足をほぐす為に行う経行(きんひん)



矢野教学部長の法話後には全員で写経

『円明』第一〇〇号発行記念  
第二十四回  
相国会本部研修会  
平成26年10月11日～13日



『円明』第一〇〇号



目次

カラグラフィア◎第一教区合同御親教  
 ◎「円明」第一〇〇号発行記念 第二十四回 相国会本部研修会  
 年頭御挨拶…………… 管長大龍窟 有馬頼底 6  
 年頭御挨拶…………… 宗務総長 佐分宗順 10  
 年頭御挨拶…………… 相国会会長 片岡匡三 14  
 御親教を終えて…………… 教学部長 矢野謙堂 18  
 臨濟宗相国寺派 第一教区 管長御親教次第…………… 24  
 相国寺派 第一教区 寺院紹介…………… 26  
 御親教 お礼のことば…………… 相国寺総代 相国会会長 片岡匡三 30  
 管長御親教の記録…………… 34  
 『円明』第一〇〇号発行記念 第二十四回 相国会本部研修会 参加者…………… 41  
 相国会本部研修会感想文…………… 40  
 第一教区 大光明寺檀家 上原博史 第二教区 光照寺檀家 川邊清史 第三教区 天正寺信徒 松田圭一 36  
 第四教区 圓福寺檀家 伊藤 彰 第五教区 萬福寺檀家 大濱 宏 第六教区 南洲寺檀家 永用八郎 38  
 仏道定款…………… 大通院 相国寺専門道場師家 小林玄徳 53  
 観音懺法会と白衣観音…………… 演劇塾 長田学舎 斉藤浩未 56  
 いつも心にY君を…………… 64  
 本山だより…………… 67  
 坐禅会のご案内…………… 68  
 教区だより…………… 82  
 教化活動委員会活動報告…………… 85  
 相国寺史編纂室だより…………… 94  
 相国寺 春の特別拝観…………… 97  
 宝物拝見「渡唐天神像 瑞溪周鳳賛」…………… 109  
 承天閣だより「円山心挙と四条派展 相国寺鹿苑寺慈照寺所蔵作品を中心に」 「花鳥画展」…………… 110  
 カラーグラフィア◎ 第二教区 是心寺 第十三世 和田賢明 新任職 晋山…………… 112  
 ◎ 第六教区 良福寺 第八世 近藤永進 新任職 晋山…………… 115  
 心のすがた…………… 116

謹賀新年

二〇一五年元旦

内局

相国会総裁 有馬頼底  
 副総裁 佐分宗順  
 会長 片岡匡三  
 本部長 矢野謙堂

管 承天閣美術館名誉館長 有馬頼底  
 宗 務 務 総 長 豊光寺住職 佐分宗順  
 教 学 部 長 大光明寺住職 矢野謙堂  
 庶 務 部 長 慈雲院住職 草場周啓  
 財 務 部 長 普廣院住職 山木雅晶  
 法 務 部 長 眞如寺住職 江上正道  
 教 学 ・ 庶 務 部 員 眞如寺住職 江上正道  
 財 務 ・ 庶 務 部 員 豊光寺副住職 佐分昭文

承天閣美術館館長 養源院住職 平塚景堂  
 承天閣事務局長 長栄寺住職 鈴木景雲  
 鹿苑寺執事 林光院住職 澤田宗泰  
 同 執 事 是心寺住職 和田賢明  
 慈照寺執事 桂徳院住職 小出量堂  
 同 執 事 慈照院副住職 久山哲永

宗務支所正副長

第一教区 長得院住職 緒方香州  
 第二教区 竹林寺住職 牛江宗道  
 第三教区 福圓寺住職 大谷昌弘  
 第四教区 東源寺住職 角野元保  
 第五教区 正善寺住職 穎川孝生  
 第六教区 本誓寺住職 穎川孝生  
 第六教区 感應寺閑栖 芝原一三

宗務支所正副長

第一教区 養源院住職(正) 平塚景堂  
 林光院住職(副) 澤田宗泰  
 第二教区 竹林寺住職 牛江宗道  
 第三教区 本派庶務部長兼任……………  
 第四教区 正善寺住職(正) 穎川孝生  
 円福寺住職(副) 田中太真  
 第五教区 本誓寺住職…………… 延本輝典  
 第六教区 感應寺閑栖…………… 芝原一三

# 謹奉賀新年



管長 大龍窟 有馬頼底

新年の御祝詞目出度く申し上げます。

小納もいたづらに馬齢を重ねて早や八十二となりましたが、今だに全国をとびまわっておりますので、御放念下さい。

昨年の九月二十七日には「第一教区御親教」も終了し、十二年間にわたる全国行脚も無事終わりましたこと、全末寺

の御住職、檀信徒の皆様方には、ひとかたならぬお世話に相成り、改めまして感謝申し上げます次第であります。

本山の諸行事も万事順調に運んでおりまして、「相国寺東京別院」の建築も本年の秋には落慶のはこびとなります。その節には末寺の諸師も是非一度点検して下さい。

また臨黄合議所（臨済宗黄檗宗連合各派合議所）の総裁も昨年よりお引き受けしており、「臨済禅師一一五〇年」の遠諱おんき行事を厳修の為、中国へ行くことも多くなりそうであります。

それから来年には、本派と大いに深い縁である「伊藤若冲」の生誕三百年にあたり、すでに出来上がっている若冲の最高傑作として有名な『動植綵絵』三十幅のカラーコロタイプ

複製版をふくめ、若冲の作品、重要文化財の鹿苑寺「襖絵五十面」をも一堂に展示することになりました。

この『動植綵絵』三十幅は、明治の廃仏毀釈はいぶつきしやくにより本山の経済を逼迫し、周辺の土地が人手に渡りそうになった時、当時の管長荻野独園おぎのどくおん禅師の英断によって明治天皇に献上し、一万円の下賜金をいただいたことで、本山周辺の土地一万八千坪を買いもどしたのです。この事は本派にとって忘れてはならないことで、永く記憶にとどめなくてはなりません。

寺域の確保ということは、寺院運営の重要な要素であります。先師大象おおつれきどう窟大津おおつれきどう櫛堂老漢も、先代の止々庵かじたにそうにん梶谷宗忍

老師も「東京に寺域を」と言われてこられ、この度ようやくその望みがかなって「東京別院」が実現したことは、一派として教線拡張にもつながり、さらに本派の方々にも、ここを大いに活用していただくことで、さらなる発展を期したく念願する次第であります。

そのような意味で、この度の全国巡教は、貴重なことでありました。改めて御礼申し上げます。







本派寺院、檀信徒の皆様には、ご健勝にて新年をお迎えのことと存じます。謹んで新年の賀詞を申し上げます。

宗務総長を拝命して、一年がたとうとしています。昨年六月には、伊藤若冲の『動植綵絵』三十幅のコロタイプ複製が約八年の歳月を経て完成し、この『動植綵絵』三十幅を相国寺方丈にかけ、江戸時代の懺法会を再現することができました。

また平成十四年五月の江上内局の発足後、教学部長として翌年十月より「管長御親教」に取り組んでまいりましたが、昨年

九月の第一教区御親教を以てすべての末寺訪問が無事円成いたしました。第一教区の御親教は、本山方丈において全塔頭合同で行われましたが、多くの檀信徒であふれ、盛大な御親教と成りました。管長猥下には、健康で精力的に末寺を歴訪されましたことは誠にありがたく、感謝申し上げる次第です。又末寺のご住職始め寺庭様、総代様、檀信徒の皆様、事務局関係各位のご協力と尽力に改めて感謝申し上げます。

この御親教を期に我が派の『寺院名鑑』が完成し、各寺院の沿革をご紹介することができ、皆様に末寺に対する理解を深めて頂く一助になったと考えております。まだまだ改訂の余地はあり、これからも編纂室を中心に末寺の調査研究も進めて参り、この『寺院名鑑』を参考に、無住寺院、兼務寺院の統廃合の問題にも、取り組んで参りたく、皆様のさらなるご協力をお願い致します。

加えて昨年より臨黄合議所（臨濟宗黄檗宗連合各派合議所）と臨濟宗連合各派布教団本部の当番寺院をお引き受けしており、平成二十八年の「臨濟禪師一一五〇年」、「白隠禪師二百五十年」の両遠諱事業に向けて理事本山として多忙な一年を過ごしました。本年も引き続き各行事が控えております。平成二十八年の「大遠諱法要」、「報恩大摂心」、「中国臨濟寺での遠諱法要」、「東京と京都の国立博物館での展覧会」などが予定されておりますが、引き続き当番本山として役目を果たして参ります。本派寺院各位におかれましても、臨濟禪普及のためご協力頂きますよう御願いたします。

さて本年は、相国寺専門道場師家、韜光室小林玄徳老大師の「視篆開堂」（平成二十八年厳修予定）に向けて準備にからなくてはなりません。そして秋には「相国寺東京別院（方丈・客殿）」が完成の予定で、その落慶法要が控えております。これもまた本派寺院の皆様のご協力なくしては、なしえない大事業です。どうか引き続きご理解とご協力をお願いする次第です。

さらに、これまで相国寺、鹿苑寺、慈照寺、三山の運営規則の整備、就業規則の総合的見直しなどを行って参りましたが、本年度中には完成の予定ですので、引き続きこれまで不備を指摘されていた相国寺宗制、派規則、本山規則等の改正整備に向けて、準備にかかりたいと考えております。解決しなければならぬ問題が山積みですが、一つ一つ確実に解決して参る決意しております。

新年にあたり、本年も相国寺派にとって実りある年でありますよう、皆様のご健勝とご活躍を祈念して、ご挨拶いたします。



管長有馬頼底猯下はじめ、本派寺院御住職並びに相国会会員、檀信徒のみなさま、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

昨年は、地球温暖化の影響か、かつてない災害に見舞われました。猛暑、豪雨、御嶽山の爆発等々、多くの犠牲者を出しました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、災害にあわれた皆様には心からお見舞い申し上げます。

管長猯下の御親教は、十二年間にわたり行われ、昨年九月第一教区を最後に無事終了いたしました。管長猯下の大いなる慈悲の心につ

つまれ、檀信徒一同「感動」し、心から感謝した次第です。管長猯下は「平和な社会を作ろう」、核兵器などもつての他、人殺しは絶対にいけません。「一切衆生は悉く仏性を有す」です。地球上のあらゆるものは仏さまです。感謝して生きること。「生かす」という感覚を大切にしなければいけないと説かれました。檀信徒との直接の触れ合いが大切であると痛感されたようです。

『圓明』百号を記念して、「相国会本部研修会」が十月に行われました。各教区から熱心な檀信徒さま四十名が参加されました。この会に参加されて、自坊の御住職がこの本山の僧堂などで厳しい修行を積み、現在があるのだということを知り、感謝の念を新たにしたいに違いありません。今後の信仰生活に、きっと役立つことでしょう。

「開山夢窓国師毎歳忌法要」が、十月二十一日厳肅にとり行われました。管長猯下をはじめ一山の御住職が凜とした厳しさの中、敬虔

な思いで宗祖の御仏前に額づき、その安寧を祈り、法灯をお守りしているお姿を拝し、身のひきしまる思いに浸りました。「般若心経」を檀信徒一同で唱和することができ、無上の喜びを味わいました。

檀信徒は、この度の御親教で管長猥下から随分と「感動」をいただいたと思います。有り難いことです。

私は、「感動」のない人生はつまらないと思っています。素直で純粋な心でものごとに対していこうと心がけています。

かつて、こんな経験をしました。

私は、高校の教員をしていました。高二の担任のクラス全員五十四名を大仙院(大徳寺塔頭)につれていきました。自分で足を運び、自分の眼で、本物の禅僧の生きざまを確認させようと思ったからです。国宝の庭園と対座。静謐な一時を味わいました。隣の部屋に移りました。そこでは、若いご住職尾関宗園おぜきそうえん禅師が演壇で仁王尊よろしく、真っ赤

な顔と激しい口調で説教をしていました。「今日の今、この一瞬、精一杯自分を出しきっている姿ほど強いものはない。安心できるものはない。」と。初めて耳にすることはとご住職の「迫力」に圧倒され、「静」から「騒」に啞然となりました。しかし、不思議な「興奮」と「感動」をもち帰りました。この強烈な「感動体験」は卒業後の彼らの人生を生きる指針になったことは間違いありません。

昨年夏のクラス会で、四十六年前のこの体験が話題になりました。そして、その席で尾関宗園閑栖和尚さまをたずねようということが決まりました。閑栖和尚の「只今」をこの目で確かめようというのです。この夏が楽しみです。

今年もいろいろと御指導、御教示いただくことと思います。よろしく御願ひ申し上げます。管長猥下はじめ、みなみなさまの御健勝を祈念いたします。

## 御親教を終えて

教学部長 矢野謙堂

平成十五年より足掛け十二年続いた管長御親教が本年をもって無事円成した。ほとんど毎年二泊三日の行程で、一日三カ寺、一カ寺あたりの滞在時間平均九〇分のペースで南は沖繩、北は北海道まで全国の末寺九十三カ寺を巡教された。管長猥下は、六十九歳で始められ八十一歳で終了されたことになる。巡教先では仏教、禪について檀信徒にわかりやすくお説きになられ、また時事の諸問題にも触れられ、核兵器廃絶、世界平和を強く訴えかけられた。巡教中は満面の笑顔を絶やさず、本派管長をお迎えする檀信徒の緊張を解された。十二年間本当にご苦勞様でございました。有難うございました。

御親教で訪れた寺院はいずれも境内伽藍が立派に整備され、当日の法要運営も拔かりなく、寺院によつては檀信徒専用の教本で全員が唱和する等、住職の日頃の布教化や檀信徒の寺に寄せる厚い信頼、信仰の深さが感じられた。特に無住でありながら、檀信徒全員が兼務住職と共に寺院を立派に護持されていることに深い感銘を受けるとともに、無住寺院の抱える諸問題、さらには宗派を超えて今急務となっている寺院後継者問題などの一端を把握する機会にもなった。そういう意味ではこの御親教が寺檀の関係、本山と末寺との関わり合いをより深くするための「出会いの場」になったことは揺るぎない事実である。

本誌『円明』では第八十一号(平成十六年正月号)より御親教報告が誌面にて掲載されてきた。本派各御寺院ご住職様、閑栖様、副住職様、寺庭婦人様、また総代、世話人を始めとする相国会檀信徒の皆様方には大変お世話になり、全末寺で管長一行を暖かくお迎えして頂いた。また御親教終了後には本誌に報告の原稿や感想文も寄稿頂いた。さらに巡教にあたり様々な支援をいただいた内局寺院、事務員全ての方々にこの場を借りて、改めて誠に有難く厚く御礼申し上げます。

今から三代前の管長、山崎大耕老師が約七十年前に御親教に出られたと聞き及んでいるが、その次第は詳らかではない。当時の国情や交通・通信の手段を考えると全末寺の巡教には困難が予想される。そういう意味では今回の御親教は、相国寺布教の歴史として特筆されるべきものである。お釈迦様は三十五歳の時にインド東北部サルナートから巡教の旅に立たれ、四十五年間、国中を回られた。言わばこれが御親教の原形であろう。前管長の梶谷宗忍老師は雑誌のインタビュの中で「お釈迦様は亡くなる直前までお説教の旅を続けられた、これが一番有難い」と話されていた。今回の御親教でも現管長猥下におかれては、まさにお釈迦様と同じ思い、同じ覚悟であったことと拝察する。そのような貴重な巡教に、前々宗務総長眞如寺江上泰山閑栖様、前宗務総長普廣院山木康稔閑栖様、現宗務総長豊光寺佐分宗順和尚様とともにお伴できたことは大変に有難く法幸無量である。改めて満腔の謝意を表し擱筆する。

# 臨濟宗相国寺派 第一教区 管長御親教次第

日時 平成二十六年九月二十七日(土) 午後三時～四時半

開場 大本山相国寺 方丈ほうじやう

午後一時から二時二十分まで「法堂はつどう」を開場し特別拝観(教学部案内)

午後二時五十五分(支度五声)

午後三時 開式 (連声出頭)

一、般若心経・消災呪、本尊回向

殿司 慈照院 久山哲永副住職

豊光寺 佐分昭文副住職

侍衣 光源院 荒木泰量副住職

司会 眞如寺 江上正道住職

二、大悲呪、開山回向

三、甘露門、各塔頭檀信徒先亡回向たつちやう

四、第一教区各塔頭寺院へ御親教記念品贈呈(管長墨蹟)

大通院 小林玄徳住職、光源院(瑞春院兼務) 荒木元悦住職、玉龍院 坂根孝慈住職、

慈照院 久山隆昭住職、長得院 緒方香州住職、豊光寺 佐分宗順住職、養源院 平塚景堂住職、

林光院(鹿苑寺執事長) 澤宗泰住職、慈照寺 小出量堂執事長、大光明寺 矢野謙堂住職、

慈雲院 草場周啓住職、普廣院 山木雅晶住職、眞如寺 江上正道住職

五、有馬頼底管長法話

六、佐分宗務総長挨拶

七、矢野教学部長挨拶

八、第一教区檀信徒代表謝辞 相国寺総代・相国会会長 片岡匡三氏

九、相国寺派全住職代表謝辞 大通院住職 小林玄徳老大師

十、記念撮影

御親教終了

午後六時十五分 御親教懇親会

管長以下第一教区各塔頭寺院、総代出席

(計三十三名・京都ブライトンホテル)

### 大本山 相国寺

山号 萬年山まんねんざん  
 開創 明徳三年(一三九二)  
 開山・開祖 勸請 夢窓国師(夢窓疎石)かんじょう むそうこくし せせき  
 開基 足利義満(室町幕府第三代將軍)  
 本尊 釋迦如来  
 住職 有馬頼底(第一三二世第七世相国寺派管長)

### 山内塔頭 林光院

開創 応永二十六年(二四一九)頃  
 開山・開祖 勸請 夢窓国師  
 開基 足利義満  
 本尊 地藏菩薩  
 住職 澤 宗泰(第十七世)  
 閑栖 澤 大道  
 副住職 澤 宗秀

### 山内塔頭 大通院

開創 応永二十三年(二四一六)  
 開山・開祖 勸請 夢窓国師  
 本尊 釋迦如来  
 住職 小林玄徳(第十三世)

### 山内塔頭 大光明寺

山号 梵王山ぼんのうざん  
 開創 暦応二年(一三三九)  
 開山・開祖 夢窓国師  
 開基 西園寺寧子

### 山内塔頭 慈照院

開創 応永十二年(二四〇五)頃  
 開山・開祖 在中中淹ちゅうちゅうあま  
 本尊 十一面觀世音菩薩  
 住職 久山隆昭(第十八世)  
 副住職 久山哲永

### 山内塔頭 玉龍院

本尊 普賢菩薩  
 住職 矢野謙堂(第十八世)  
 閑栖 有馬頼底

### 山内塔頭 長得院

開創 応永三十二年(二四二五)  
 開山・開祖 鄂隱慧藏かくいんえいざう  
 開基 足利義量(第五代將軍)  
 本尊 釋迦如来  
 住職 緒方香州(第十九世)

### 山内塔頭 普廣院

開創 嘉慶二年(一三八八)  
 開山・開祖 雲溪支山うんけいしえん  
 開基 足利義満  
 本尊 釋迦如来  
 住職 坂根孝慈(第十五世)

開創 応永八年(一四〇一)頃  
 開山・開祖 觀中諦くわんちゅうたひ  
 開基 足利義教(第六代將軍)  
 本尊 地藏菩薩  
 住職 山木雅晶(第二十二世)  
 閑栖 山木康稔

山内塔頭 光源院さんないたつちゅう こうげんいん

開 創 応永二十八年(一四二二)  
開山・開祖 勸請 夢窓国師  
開 基 足利義輝(第十三代將軍)  
本 尊 釋迦如来  
住 職 荒木元悦(第二十四世)  
副住職 荒木泰量

本 尊 釋迦如来  
住 職 佐分宗順(第八世)  
副住職 佐分昭文

山内塔頭 養源院やうげんいん

開 創 応永十六年(一四〇九)  
開山・開祖 曇仲道芳どんちゅうどうほう  
本 尊 葉師如来  
住 職 平塚景堂(第十九世)  
副住職 平塚景山

山内塔頭 慈雲院じゆんいん

開 創 長祿年間(一四五七〜六〇)  
開山・開祖 瑞溪周鳳ずいけいしゅうほう  
本 尊 釋迦如来  
住 職 草場周啓(第十七世)

山内塔頭 瑞春院ずいしゆんいん

開 創 文明十六年(一四八四)  
開山・開祖 龜泉集證きせんしゅうじやう  
開 基 足利義滿・太清宗渭たいせいそうゐ  
本 尊 阿弥陀如来  
住 職 須賀玄集(第十七世)

山内塔頭 豊光寺ほうこうじ

開 創 慶長三年(一五九八)  
開山・開祖 西笑承兌せいしやうじやうたい

山外塔頭 眞如寺さんがいだつちゅう しんによじ

山 号 萬年山  
開 創 曆応五年(一三四二)  
開山・開祖 勸請 佛光国師(無学祖元)  
開 基 勸請 無外如大尼むげにょだいに  
本 尊 釋迦如来  
住 職 江上正道(独住第九世)  
閑 栖 江上泰山

山外塔頭 慈照寺(銀閣寺)じしやうじ

山 号 東山  
開 創 延徳二年(一四九〇)  
開山・開祖 勸請 夢窓国師  
開 基 足利義政(第八代將軍)  
本 尊 釋迦如来  
住 職 有馬頼底(特命第八世)

山外塔頭 鹿苑寺(金閣寺)ろくおんじ

山 号 北山  
開 創 応永二十六年(一四一九)  
開山・開祖 勸請 夢窓国師  
開 基 足利義満  
本 尊 聖観世音菩薩  
住 職 有馬頼底(特命第十八世)

※開創年については、寺により造営開始年や前身の寺や庵の存在などから諸説ある場合もあるが、ここでは各住職確認のもと、『相国寺派寺院名鑑』(平成十九年編)の記述を用いた。



## 御親教 お礼のことば

相国寺総代 相国会会長 片岡匡三

この度、相国寺派第七世有馬頼底管長猥下は、ご就任以来のご懸案であった大本山相国寺の全末寺の御親教を実に七十年ぶりに実現されました。

御親教は、平成十五年一月、第六教区鹿児島「観音寺」にはじまり、順次行なわれ、本日平成二十六年九月二十七日、第一教区京都市を最後に、当大本山相国寺方丈に於て厳肅にとり行われました。相国寺派全寺院九十三カ寺の、十二年間にわたって行なわれたご親教がめでたく無事終了いたしました。

管長猥下におかれましては、ご高齢にもかかわらず、全行程を率先してご巡錫賜り、誠に有難く、心から感謝申し上げます。また、ご随行の宗務総長、教学部長、部員の皆様方の綿密なご計画とご配慮のおかげで、万事恙なく完了いたしましたこと、改めて厚くお礼申し上げます。

各教区のご住職や檀信徒の皆さまも管長猥下をお迎えするに際して、万事遺漏のないようにと随分とご苦勞なさいました。伝道誌『圓明』に掲載された各区の総代さまの感想文を拝読いたしました。詳細な取組みの様子など貴重な文章です。その感想文を拝読して、私は次の三点に注目しました。

第一は、有馬頼底管長猥下についてです。「管長は、威厳に満ちた近寄りやすい方」と、ほとんどの檀信徒の皆さま、一方的に思い込んでいたようです。ところが当日、お着きになり、車から降りられる管長猥下の優しい笑顔と端正で気品たまたよう自然体のお姿に接し、一同びつくり。何ともいえない爽やかな親しみを感じ、嬉しさと驚きとで、今までの緊張がどこかに消えてしまったようです。さらに「法話」では、難解な禅語を非常にわかりやすく諄々と説かれ、思わず引き込まれました。管長猥下は「無」を説き、「執着を無くすることが大切だ」と説かれました。管長猥下の「飄飄乎」とした今のお姿こそ正に執着の無いお姿なのだと気づき、納得できたようです。「おれが、おれが」と毎日欲深く生きている自らを反省させられたに違いありません。

また、管長猥下はお忙しい中を、世界中を巡って仏教文化、禅文化の普及、教化に努めておられ、その実践の中で熱く「平和」への呼びかけを行っておられることを知りました。全身全霊を捧げての行いに深く「感動」し、強く共鳴いたしました。人は真実の姿に接する時、心から「感動」するものです。その「感動」は、またさらに深い信仰を導くものと実感しました。この度は、管長猥下のたいなる慈悲の心に一同すっぱりとつつみこまれて、心地よい充実した一時を味わったようです。「管長さんにお会いできて、本当によかった。」檀信徒一人一人の心の底からの喜びの声が聴こえてくるように思いました。

第二は「相国寺本山」についてです。

檀信徒の皆さまは、ご住職から時々本山の様子をおききするぐらいで、本山は「奥の院」的むずかしい所との印象が強かったようです。特に、なじみのない遠い存在でした。ところが、この度のご親教でまず管長猥下の「大いなる慈悲の心」に包まれ、考えがわかりました。さらに宗務総長、教学部長さまから本山の日常のご多忙なお勤めの様子をおききし驚きました。特に『圓明』が開山夢窓国師のご遺徳、風光を偲び、伝道誌として檀信徒の信仰の精神生活の向上につとめるために、細心の配慮をもって編集され、末寺に配布されていることを知ったのです。意義深い大切な仕事をなさっておられることを知りました。教学部長さまからは、本山の伝統的宗教行事やご法要、坐禅研修会等々びっしりとお仕事がつまっていたことのご説明がありました。その沢山の行事の一つとして、この度のご親教が実行されたことを知り、この行事が「管長」と「本山」と「末寺」「檀信徒」とを結びつけるとても重要な意義深い行事であることを改めて知ったわけです。

本山が、ぐっと身近な、大切な存在であることを実感できたようです。

「一度本山に行ってみたい。」

ここでも、又、檀信徒のだけれども、そう思ったに違いありません。

第三は、寺と檀信徒についてです。

この度の御親教を全教区のご住職さま、檀信徒一同が心待ちにしておりました。「管長さま」ご一行を「気持ちよくお迎えしよう」と日ごろ疎遠がちのお寺に出かけ、総代が中心となって寺院内の清掃や境内の草むしりなど、喜々として作務をし、気持ちのいい汗を流しました。おかげで、ご住職、寺庭さま、檀信徒と思わぬ深い「信頼の絆」が生まれ、一同晴れやかな気持ちでご一行をお迎えすることができました。「管長さま」に、お誉めのことばを頂戴して恐縮しているところもあったようです。

又、今回きれいに整備された自坊の本堂で「回向」の読経のさい「管長さま」ご一同と「般若心経」をすがすがしい気持ちで唱和することができました。初めての経験だけに、無上の喜びに浸ったようです。

満ち足りた喜びと、感謝の念で、一層の精進を誓ってご一行をお送りしたに違いありません。

最後に、今回の厳粛なご親教で、管長猥下が威儀端正な中にも、やさしく、丹念にご教導下さり、檀信徒一同この上ない感動と喜びに浸りました。

この「感動」は、信仰人として、これからの生き方に「自信」と「勇氣」と「指針」とをお与えくださいました。心から感謝申し上げます。

有馬頼底管長猥下並びにみなさまのご健勝と、今後さらなる一山の発展を祈念する次第です。

管長御親教の記録（平成15年～26年）

●第一回

開教日／平成15年10月22・23日 第六教区鹿児島県 開教寺院数／六カ寺  
御親教開教寺院（開教順）／観音寺 感應寺 良福寺 光明寺 南洲寺 安国寺  
『円明』掲載／第八十一号 随行宗務総長／江上泰山 随行教学部長／佐分宗順 随行部員／久山哲永

●第二回

開教日／平成16年10月22・23日 第六教区宮崎県 開教寺院数／六カ寺  
御親教開教寺院（開教順）／廣護寺 龍源寺 龍巖寺 永徳寺 西林院 虎溪寺  
『円明』掲載／第八十三号 随行宗務総長／江上泰山 随行教学部長／佐分宗順 随行部員／矢野謙堂

●第三回

開教日／平成17年9月24・25日 第三教区兵庫県・三重県 開教寺院数／四カ寺  
御親教開教寺院（開教順）／少林寺 福圓寺 瑞林寺 長谷寺  
『円明』掲載／第八十五号 随行宗務総長／江上泰山 随行教学部長／佐分宗順 随行部員／山木雅晶

●第四回①

開教日／平成18年6月23日 第三教区北海道 開教寺院数／一カ寺  
御親教開教寺院（開教順）／明覚寺  
『円明』掲載／第八十七号 随行宗務総長／江上泰山 随行教学部長／佐分宗順 随行部員／矢野謙堂

●第四回②

開教日／平成18年9月2・3日 第三教区高知県・兵庫県 開教寺院数／三カ寺  
御親教開教寺院（開教順）／国清寺 見性寺 継孝院  
『円明』掲載／第八十七号 随行宗務総長／江上泰山 随行教学部長／佐分宗順 随行部員／矢野謙堂

●第四回③

開教日／平成19年4月28日 第三教区兵庫県 開教寺院数／一カ寺  
御親教開教寺院（開教順）／法雲寺  
『円明』掲載／第八十八号 随行宗務総長／江上泰山 随行教学部長／佐分宗順 随行部員／矢野謙堂

●第五回

開教日／平成19年9月1・2・3日 第四教区福井県 開教寺院数／九カ寺  
御親教開教寺院（開教順）／潮音院 清雲寺 向陽寺 海岸寺 東源寺 常禅寺 龍虎寺 西安寺 善應寺  
『円明』掲載／第八十九号 随行宗務総長／江上泰山 随行教学部長／佐分宗順 随行部員／矢野謙堂

●第六回

開教日／平成20年9月28・29・30日 第四教区福井県 開教寺院数／十一カ寺  
御親教開教寺院（開教順）／円福寺 常津寺 洞昌寺 桃源寺 西林寺 壽奎寺 海見寺 壽福寺 養江寺 長養寺 長福寺  
『円明』掲載／第九十一号 随行宗務総長／江上泰山 随行教学部長／佐分宗順 随行部員／矢野謙堂

●第七回

開教日／平成21年9月27・28・29日 第四教区福井県 開教寺院数／九カ寺  
御親教開教寺院(開教順)／眞乗寺 海蔵寺 正法寺 藏身寺 正善寺 南陽寺 妙祐寺 元興寺 園松寺  
〔円明〕掲載／第九十三号 随行宗務総長／江上泰山 随行教学部長／佐分宗順 随行部員／矢野謙堂

●第八回

開教日／平成22年9月27・28日 第五教区島根県 開教寺院数／六カ寺  
御親教開教寺院(開教順)／保壽寺 西光寺 長嚴寺 増光寺 富田寺 本誓寺  
〔円明〕掲載／第九十五号 随行宗務総長／江上泰山 随行教学部長／佐分宗順 随行部員／矢野謙堂・荒木泰量

●第九回

開教日／平成23年9月27・28・29日 第五教区島根県・第三教区鳥取県 開教寺院数／六カ寺  
御親教開教寺院(開教順)／西光院 興善寺 東光寺 萬福寺 靈雲寺 南苑寺  
〔円明〕掲載／第九十七号 随行宗務総長／山木康稔 随行教学部長／矢野謙堂 随行部員／江上正道・荒木泰量

●第十回

開教日／平成24年9月26・27日 第二教区京都府 開教寺院数／五カ寺  
御親教開教寺院(開教順)／光照寺 大雲寺 福性寺 神昌寺 藏泉寺  
〔円明〕掲載／第九十九号 随行宗務総長／山木康稔 随行教学部長／矢野謙堂 随行部員／江上正道・荒木泰量

●第十一回

開教日／平成25年9月26・27・29日 第二教区京都市 開教寺院数／八カ寺  
御親教開教寺院(開教順)／長遠寺 大應寺 竹林寺 是心寺 長栄寺 無礙光院 桂徳院 智藏院  
〔円明〕掲載／第一〇一号 随行宗務総長／山木康稔 随行教学部長／矢野謙堂 随行部員／江上正道・荒木泰量

●第十二回①

開教日／平成26年4月13日 第六教区沖繩県 開教寺院数／一カ寺  
御親教開教寺院(開教順)／通天寺  
〔円明〕掲載／第一〇二号 随行宗務総長／山木康稔 随行教学部長／矢野謙堂 随行部員／江上正道・荒木泰量

●第十二回②

開教日／平成26年5月27日 第三教区大阪市 開教寺院数／一カ寺  
御親教開教寺院(開教順)／天正寺  
〔円明〕掲載／第一〇二号 随行宗務総長／佐分宗順 随行教学部長／矢野謙堂 随行部員／江上正道・荒木泰量

●第十二回③

開教日／平成26年9月27日 第一教区本山ならびに全塔頭(合同) 開教寺院数／十六カ寺  
〔円明〕掲載／本号 内局員、第一教区僧侶全員

『円明』第一〇〇号発行記念 第二十四回 相国会本部研修会 日程

10月11日(土)

14時 登山、受付(大書院)

※受付は13時30分より

14時30分 開講式(方丈)

① 般若心経・消災呪・本尊回向  
大悲呪・開山回向

② 矢野謙堂教学部長挨拶

③ 四弘誓願文

15時 殿司 江上正道教学部員(以下同)  
大書院にて諸説明、施設案内

16時 坐禅(大書院 休憩・経行有り)

経行とは一列になって歩くことを言います

薬石(夕食・食堂)

薬石後休憩

18時30分 矢野謙堂教学部長法話「五山の輝き」  
(承天閣美術館2階 講堂)

19時30分 写経  
(承天閣美術館2階 講堂)

20時30分 開浴 浴室大(男性) 浴室小(女性)

22時 就寝

22時30分まで希望者のみ方丈廊下で夜坐

※教学部和尚引率

10月12日(日)

6時 開静 洗顔、寝具片付け等  
朝課(方丈)

6時30分

① 般若心経・消災呪・本尊回向

② 大悲呪・開山回向

③ 白隠禅師坐禅和讃

④ 四弘誓願文

7時 清掃(大書院など)

7時30分 粥座(朝食・食堂)

9時 坐禅(休憩有り)

10時 法堂拜観・相国僧堂禅堂見学ほか

12時 齋座(昼食・食堂)

休憩

14時 講演・関西大学教授 原田正俊氏

演題「寺と檀家の歴史と現代」

(承天閣美術館2階 講堂)

15時30分 銀閣寺特別拝観

17時 薬石懇親会 東山区区内にて

19時 本山帰着

19時30分 開浴(入浴)

21時 研修生と僧侶との車座意見交換会

22時 就寝

9時30分

坐禅(大書院)

閉講式(方丈)

① 般若心経・本尊回向

② 有馬頼底管長 猊下 御垂訓

③ 佐分宗順宗務総長 総評

④ 修了証授与

⑤ 記念品授与

⑥ 四弘誓願文

⑦ 記念撮影

10時30分 随時下山

10月13日(月・祝)

6時 開静 洗顔、寝具片付け等

6時30分 朝課(方丈)

① 般若心経・消災呪・本尊回向

② 大悲呪・開山回向

③ 白隠禅師坐禅和讃

④ 四弘誓願文

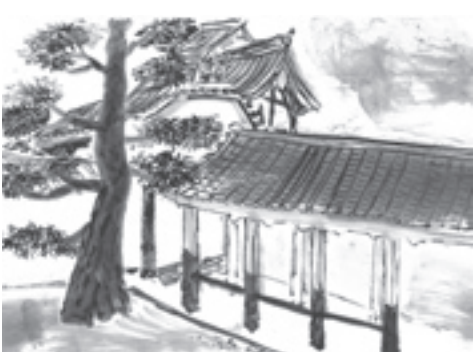
清掃(大書院など)

7時 粥座(朝食・食堂) 粥座後帰り支度

8時30分 相国寺僧堂師家 小林玄徳 老大師

提唱「禅経験の勧め」

(承天閣美術館2階 講堂)



## 第二十四回 相国会本部研修会 参加者 (教区順・敬称略)

教区	菩提寺	参加者
第一教区	京都市上京区 大光明寺	上原博史
第一教区	京都市上京区 慈雲院	高橋正範
第一教区	京都市上京区 相国寺職貢	藤田和敏
第二教区	京都府亀岡市 福性寺	大西正美
第二教区	京都市左京区 是心寺	山田博
第二教区	京都市左京区 竹林寺	二股安伸
第二教区	京都府南丹市 光照寺	川邊清史
第二教区	京都市上京区 長遠寺	八木義夫
第三教区	大阪市天王寺区 天正寺	松田圭一
第三教区	北海道旭川市 明覚寺	太田正昭
第三教区	兵庫県たつの市 見性寺	三木立子
第三教区	兵庫県姫路市 福圓寺	土倉忠彦
第四教区	福井県高浜町 眞乗寺	安田渉
第四教区	福井県高浜町 海蔵寺	池田充宏
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	妙祐寺 常畑一夫
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	正善寺 堀口喜與嗣
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	南陽寺 高田一
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	蔵身寺 武藤光
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	長福寺 澤田拓郎
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	常津寺 一ノ瀬運善

教区	菩提寺	参加者
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	圓福寺 伊藤彰
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	西林寺 山副修一
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	桃源寺 浅田隆
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	海見寺 松田泰知
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	壽奎寺 米津正訓
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	龍虎寺 徳庄一栄
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	善應寺 小谷康弘
第四教区	福井県高浜町 福井県高浜町	海岸寺 大谷育雄
第五教区	福井県高浜町 福井県高浜町	富田寺 福田豊
第五教区	島根県出雲市 島根県出雲市	東光寺 金築明雄
第五教区	島根県出雲市 島根県出雲市	保壽寺 高島俊司
第五教区	島根県出雲市 島根県出雲市	萬福寺 大濱宏
第五教区	島根県出雲市 島根県出雲市	本誓寺 島田浩
第五教区	島根県出雲市 島根県出雲市	西光院 和田守裕司
第五教区	島根県出雲市 島根県出雲市	西光寺 飯塚明輝
第五教区	島根県出雲市 島根県出雲市	靈雲寺 山崎泰雄
第六教区	鹿児島県鹿児島市 鹿児島県鹿児島市	南洲寺 永用八郎
第六教区	鹿児島県鹿児島市 鹿児島県鹿児島市	良福寺 長洋孝
第六教区	鹿児島県出水市 鹿児島県出水市	感應寺 中野早裕
引率和尚	第二教区 竹林寺住職	牛江宗道

## 相国会本部研修会に参加して

第一教区 大光明寺檀家 上原博史

九月初めでしょうか……。十月十一日より二泊三日の研修会へ参加するように言われ、二つ返事で承知しましたとお答えしましたが、日が経つにつれ、私にお寺の研修など出来るのだろうか？内容も分からずに返事してしまっただ事を悔やみかけておりました矢先に、教務部長様より、参加要項、気合いの入ったご挨拶が送付され、私も逃げてはいられないと、覚悟を決めました。

二泊三日の研修をちゃんとやり遂げなければならぬと、気持ちを変え、受付け。

開講式、お経を唱え、坐禅、写経、葉石(精進料理)と多様なスケジュールが組まれており一日が粛々と進んで行きました。まずは坐禅です。私は簡単な事だと坐禅を侮っていました。なんと雑念の多い事でしょう。自分の心は

こんなにも乱れているのだと焦りました。頭を空にする事の難しさを学びました。そして、矢野教学部長の五山の輝きという法話では、禅、臨済宗、相国寺について分かりやすく説明して下さい、宗教の大切さを理解する事ができました。

二日目の講義は、関西大学教授、原田正俊博士の「寺と檀家の歴史と現代」というお話です。とても興味深く、お寺と檀家の役割が時代と共にこんなにも違うものなのかと驚き、今現在の高齢化社会の問題の大きさを改めて自身に突き付けられているようでした。高齢化社会問題は、二日目の夜に行われた「研修生と僧侶との車座意見交換会」でも焦点になり活発な議論が酌み交わされました。

三日目は、相国寺僧堂師家・小林玄徳老大師、

提唱「禅経験の勧め」で心に残った事は、人生は砂時計というもので、一生を砂時計に例え、残りの寿命の大切さを説かれたと理解致しました。私事ではございますが、現在、お店を改築中ですが相国寺の法堂、僧堂禅堂、銀閣寺等の見学はとても日本建築として参考になりましたし、和の文化の素晴らしさを再確認致しました。

経験は私の心の糧になる筈と確信致しており、ます。きつと、これからの人生の考え方や指針を変えてくれる事になると思います。研修の機会を与えて下さいました管長猥下、佐分総長様、矢野教学部長様、江上教学部員様には大変お世話になりました。有難うございました。これからの相国寺のますますのご発展を心よりお祈り致します。

合掌

## 相国会本部研修会に参加して

第二教区 光照寺檀家 川邊清史

十月十一日午後二時過ぎ、大書院で教学部江上正道様から開講式に先立ち諸説明を受け、その後方丈で開講式が行われ、矢野謙堂教学部長様導師のもと般若心経、消災呪、本尊回向、大悲呪・開山回向、白隠禅師坐禅和讃を研修生全員で読経。矢野部長の開会ご挨拶を受け、研

修が始まりました。

初日に矢野部長から「五山の輝き」と題して、禅について、禅宗の教義、臨済宗と相国寺について、そして五山として禅宗、禅宗文化が光り輝いていたとの法話を、二日目には関西大学教授原田正俊様から「寺と檀家の歴史と現在」

の演題で、檀家の歴史や成り立ちと私たちを取り巻く現状について、ご講演をお伺いしました。三日目には、相国寺僧堂師家小林玄德老大師様から「禅経験の勧め」と題して、仏教の基本理論で学ぶべき三学「戒・定・慧」を詳細に、また体験例をもとにした提唱を拝聴しました。また、研修に法堂の拝観、相国僧堂禅堂見学、銀閣寺特別拝観が生まれ、普段では拝観できないところもご案内、ご説明を受け、本山をより身近に感じたところです。

三日間行った坐禅とともに、朝六時に起床し、方丈での朝課。班別の大書院の清掃。食堂での作法にのっとりした食事(粥座、斎座、薬石)。午後十時就寝する規則正しい生活を通して、貴重な修行の一環を体験することができました。

食事後の休憩時間には、承天閣美術館で開催されていた「花鳥画展」を拝見し、伊藤若冲の作品や貴重な多くの文化財をゆっくりと鑑賞するほか、台風十九号の接近、上陸が予報さ

れる中、北海道から鹿児島まで参加されていた同じ宗門の方との交流も貴重な体験でした。研修生と僧侶との車座意見交換会では、総代さんが多く参加されていた状況もあり、原田教授の講演で話された現代の課題、檀家の減少による護持や墓地の管理、住職の確保等々切実な状況が話され、私たちの寺だけでなく農村部の寺院を今後どう守っていくのか、檀信徒への大きな課題と痛感しました。

閉講式では、有馬頼底管長猥下様から三日間に亘る研修へのねぎらいと「住職と檀信徒が車の両輪となり、総代がその関係の潤滑油の役割を担って寺院を盛り上げてほしい。」とのお言葉をいただき、続いて佐分宗順宗務総長様の総評を受けた後、修了証、記念品を賜り、管長様を囲んで記念写真を撮りました。

「日常生活が修行の場、日常の中にこそ禅はある」との小林老大師、矢野教学部長の教えと貴重な体験を胸に刻み下山いたしました。

## 相国会本部研修会に

第三教区 天正寺信徒 松田圭一

### 参加させていただいて

先日は相国寺におきまして、一般の方々ではなかなか体験できないような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございます。本題に入る前に天正寺の運営形態をお話しします。天正寺は他のお寺様と違い、坐禅会(住職の講話と坐禅)を中心になりたっているお寺で、私自身もその坐禅会代表として本研修会に参加させていただいています。印象に残ったことを断片的ですが書かせていただきます。

まず一日目、最初の驚きは夕方いただいた「薬石」です。以外に品数が多くて喜んだのですが、予想はしていたものの「え！こんなに味がうすいのか！」というのが実感です。夜十時半からの「夜坐」にも参加しました。方丈廊下で薄暗い中、庭に面して座しておりますと自分が闇の中に溶け出すような心地よさがあり

ました。

二日目の十時から法堂・坐禅堂等の見学がありました。普段は一般人の入れない坐禅堂での矢野教学部長様のお話が印象に強く残っています。すりきれて決してきれいとは言えない修行僧の坐布を前に、ご自分の体験交え、修行僧の実際の生活を話していただきました。おりしも、庭の向こうからは見解を述べる一般参加者の大声が聞こえてきて、修行道場の日常を垣間見ることができました。

研修会の間はずっと精進料理だと覚悟をしておりましたが、二日目の薬石はなんと「白沙村莊」での豪華な食事でした。研修会中になんかに豪華なものをいただいてよいものかと戸惑いながらもおいしくいただきました。夜九時からは「車座意見交換会」でしたが、

私のような者は内容を云々できる立場でないで、本部の方々、各総代方それぞれご苦労が多いんだなと言う印象のみ記しておきます。

以上が「研修会」の断片的な印象です。最後に相国寺の皆様方、今回の研修会では本当にお世話になりました。ありがとうございます。

## 相国会本部研修会に参加して

第四教区 圓福寺檀家 伊藤 彰

第四教区からは、末寺の約半数の十六名が参加し全員揃って登山。庫裡に入ると、矢野教学部長様自らが受付され、また名前入りの輪袈裟も準備されており、本研修にかける教学部の意気込みを感じた。

開講式後、坐禅から研修開始。身体を整え、呼吸を整え、心を整えのようですが、色々な事が頭をよぎったり、カラスの鳴き声や足のしびれに気を取られる等、空・無の境地には程遠く、警策に打たれ気合を入れ直し坐禅を続けた。夜の方丈裏廊下での夜坐は初体験で、夜風に

当たりながらで、まさに修行中の禅僧になった気分がした。

薬石(夕食)は、一般家庭では団欒の時間だが、ここでは私語厳禁。五観文を唱えた後、精進料理を感謝して食すが、味薄く、量も少ない。若い修行僧はこれでもまんでくれるのだろうか。と気になった。食べ終わった後、お椀にお茶を入れ、残した一枚の沢庵で全お椀を綺麗にし、それを飲む。一見、汚いようだが自分が食べた残りであり、汚いはずがないと妙に納得した。

二日目は六時起床後、朝課・清掃で、禅宗の



教義である「一掃除、二信心」を实践。坐禅後、特別に相国僧堂禅堂を見学させていただいた。竹、杉林に囲まれ静寂で、堂内は薄暗く、一人一畳でまさに修行場の雰囲気を感じる。本堂の方から何か声が聞こえて来たが公案の間答中らしいとのこと。最初は持っている知識で答えるが何度も追返される。何も答えることが無くなり、頭の中が空っぽになってからが本堂の公案開始とのこと。俗世界と離れた修行の厳しさを教えていただいた。

夜は、佐分宗務総長様以下本山和尚様と参加者との車座意見交換会。

第四教区からは、

- 住職が不足(二十九箇寺中住職十名)、また、現在は住職が居られても将来が不安。
- 檀家数が少ないため伽藍等を維持・整備していくのが厳しい。当然檀家も負担するが本山からも助成を。

両件とも第四教区末寺にとっては大きな門

記念撮影を行い、下山した。

以上、研修の一部しか述べられませんが、今回の特別研修会は、坐禅を中心とした充分練られた盛り沢山のカリキュラムで、「相国寺のすべて」を知ることが出来、また、わず

題で、即良い方向には進まないが、

檀家の生の声を聴いていただき有意義な時間であった。

最終日に、小林玄徳老大師の提唱を拝聴し、最後に教示いただいた次のお言葉が身にしみた。

- 「人生砂時計」である。砂が多いうちは減り具合がわからないが、少なくなってきたら減りが早い。このようになれば一粒一粒(一年一年)がもったいない。残りの人生は時間を無駄にせずに、価値あるものに使い。閉講式では、有馬管長猥下からお寺は和尚と檀家が両輪で、総代はそれを回す潤滑油とのご垂訓を受け、あらためて総代の責任を認識した。

佐分宗務総長様からは、末寺の悩み、問題がわかった。本山としてもできることはする。但し、現在の決まりを変えられるものと、変えられないものがあることは理解願いたい旨のお言葉をいただいた。

その後、修了証・記念品をいただき、全員でか三日間でしたが、三毒(貪・瞋・痴)を押さえ、る生活を送ることが出来ました。矢野教学部長様、江上教学部員様には準備、研修中の指導・生活のお世話等大変ご苦労をおかけしましたこと感謝いたします。本当にありがとうございました。

## 相国会本部研修会に参加して

第五教区 萬福寺檀家 大濱 宏

今年、定年退職を迎えた私にとって、今まで檀信徒として真正面よりお寺に向かい合うことは、正直少なかったように思う。これからは、お寺のこと・地域のことにも目を向けていかなければと考えていたところへ、住職である福場宗康様よりお声をかけて頂き、大変に感謝をし参加させて頂いた。三十九名の参加者、各々のお寺での立場は違う人たちであったが、

寝食を共にした二泊三日は、私にとって檀信徒としての心構えを教えて頂いたものとなった。感謝にたえない。

さて、研修会は朝課で始まり、掃除、坐禅で心を清め一日が始まった。坐禅(大書院にて)は、広い空間でお互い向き合って行い、初日、二日目と多数の研修者が警策を受けた。私も、両日共警策を受けさせて頂いた。少し辛い時

間ではあったが、心が穏やかになった。ここで、今回の研修会で印象に残り、私に影響頂いたものについて列記してみたい。

●人生砂時計●価値あるものに時間を使う。大変にすばらしい言葉であり、今でも話される表情が思い出される。

(二) 矢野謙堂教学部長法話「五山の輝き」  
禅・相国寺の歴史について学ぶ。萬年山(山号)相国承天禅寺(寺号)を通称 相国寺しょうこくじという。山号、寺号があることをはじめて知る。

(四) 相国僧堂禅堂見学(矢野教学部長により) 僧侶の修行について拝聴した。一年三六五日が修行。一日の坐禅・数時間行う。

(二) 原田正俊 関西大学教授講演

「寺と檀家の歴史と現代」  
現代社会で起こっている寺と檀家の諸問題についてあり、放棄された墓の増加、無縁墓の増加、無住寺院が相国寺派で三割強あることにも驚くと共に残念な思いであった。

(五) 研修生と僧侶との車座意見交換会

佐分宗順宗務総長、矢野謙堂教学部長の出席のもとで、活発に行われた。  
●無住職のため、檀家として大変に困っている点について  
●住職の研修の強化(資質の問題)  
以上の二点が強く印象に残っている。

(三) 相国寺僧堂師家 小林玄德老大師

「禅経験の勧め」

最後に、今回の研修会に参加させて頂いたことに感謝し、今後のお寺の活動に微力ではあるが尽力して行きたい。

## 『円明』第二〇〇号発行記念 相国会本部研修会 体験記

第六教区 南洲寺檀家 永用八郎

今年七月上旬、壇那寺である南洲寺和尚様より本山研修会参加の話しをお聞きし、二泊三日の研修会の日程表を見て、実際二つ返事とまではいきませんでした。研修会の内容がと言うことではなく、三日間も仕事(鹿児島市で銭湯を営んでいます)を休めるかで快諾できないでいました。妻の「行ってくれば。仕事は大丈夫だから」の一言、また南洲寺の和尚様からの「是非に」と背中を押され、また自分自身昨年還暦を向かえひとつの区切りと考え自己啓発の鍛錬にと、参加を決意しました。

そんなことから期待に胸弾ませて十月十一日、早起きして銭湯の準備を出来るだけして、装いも作務衣を着て気合十分。十時発の伊丹行きに乗るべく鹿児島空港の搭乗口で待っていますと、館内アナウンスで乗るはずだった飛行機が台風十九号の影響か、風のため伊丹空港に

引き返したとのこと、十時発の伊丹行きは欠航。台風十九号はまだ沖繩付近だったので安心していたのですが。次の便、十二時発のキャンセル待ち手続きをやっていたら、同じ便に乗る予定だった第六教区串木野の良福寺の檀家さんで同じ本山研修会参加の長 洋孝さんが初対面ながらも、作務衣姿の私にお声を掛けて頂き、ふたりで相談して飛行機をあきらめて新幹線で行くと決め、すぐに本山に電話を入れ状況を説明、本山矢野謙堂和尚様から「遅参してもかまいません、お気をつけて登山下さい」とのこと。急ぎ鹿児島中央駅に戻り、新幹線に飛び乗り京都へ。京都駅十六時十四分着、本山到着十六時五〇分。今回、四回目の登山です。

庫裏で受付後、大書院に通されて研修会参加の皆さん(全国から三九名)に紹介して頂き、十四時三〇分からの開講式、その後の坐禅には

間に合いませんでしたが、なんとか研修会に参加合流できて何よりでした。

十七時三〇分からの薬石後、相国寺教学部長の矢野謙堂和尚様の法話「五山の輝き」を受講。禅とは何か、禅宗とは何か、京都五山、臨濟宗、相国寺の説明(万年山 相国承天禅寺)等のご法話があり、なかでも心に残るお話しは、禅は別名「仏心宗」お釈迦様と同じ心を自らに体現する、即ち悟りである。また、常に自らが働き、冷暖自知するが如く体験修行を積み上げる、日常の中にこそ禅はある。「一掃除、二信心」。あれこれ計らわず、心をからっぽにして自分のやるべき事をやる。「別に工夫無し」。今、正に日常生活の中で「一掃除、二信心」、「別に工夫無し」を心がけて働いています。法話後、般若心経を写経。開浴の後、就寝前に方丈裏廊下での夜坐。静まりかえった暗闇の中での坐禅。二〇分ほどの坐禅でしたが、慌ただしかった今日一日が嘘のような心の落ち着きを得ることができました。

二日目は、六時に開静(起床)。六時三〇分朝課(朝一番のお参り)、全員一体となり大きな声

十時、本山伽藍拝観。まずは法堂拝観。本山・相国寺は山門・仏殿が消失しているため、法堂が仏殿代わりとなっています。日本現存最古の法堂とのこと、天井には「鳴き龍」で有名な龍の絵、「蟠龍図」が描かれています。須弥壇にはお釈迦様、矢野和尚様と一緒に全員で般若心経を読経。昨晚、写経し祈願文を書き入れた経文を、須弥壇に納めて頂きました。法堂が消失しない限り、未来永劫保管されるのこと。そのことを聞き全員感動。次は開山堂、僧堂禅堂見学。僧堂禅堂は、一般拝観はできないところで、今回特別に僧堂師家の小林玄徳老大師のご好意で拝観できました。現在、八人の雲水さんが修行されているとのこと。起きて半畳、寝て一畳の修行。雲水さんの修行の様子を矢野謙堂和尚様から聞き、改めて修行僧の厳しさを再認識しました。十二時、斎座(昼食)。粥座と同じ要領で昼食です。

十四時、関西大学教授、原田正俊先生の講演。演題は「寺と檀家の歴史と現代」。お寺と檀家の関係のお話しから、従来は伝統的なもの、当たり前前のものとしてきたが近年大きな変化が

で読経。(般若心経・消災呪・大悲呪・坐禅和讃・四弘誓願)七時から作務。班ごとに分かれての作務、私たち第六教区の四班は食堂で粥座(朝食)の配膳準備。七時三〇分、粥座。字の如く朝はお粥。それと味噌汁、沢庵、梅干です。前日と同じく、五観文を全員で読み祈で始まり、音を一切たてず無言で咳きひとつできない雰囲気、お椀の上げ下ろしも音をたてない。極端な話、沢庵も音をたてずに食べる。沢庵一枚残し食べ終わったら、お椀にお茶を入れその沢庵でお椀を濯ぎ、それを飲み干す(洗鉢)。残るのは梅干の種ひとつ。赤椀を積み重ね、片付ける。最後のひとりが食べ終わるまで無言で待つ。そしてまた祈を合図で終わる。まるで修行僧、雲水になったかのよう。これも禅でしょう。

九時、坐禅。大書院で全員そろって四〇分間ほどの坐禅です。直日の和尚様が、警策を持ち、ゆっくりと皆の前を歩かれる。姿勢が悪いと直して下さるか、警策で叩かれる。叩いてほしいければ、自分の前に来たら合掌し警策を受ける。私も二回、警策を受けました。過去何回も経験してはいますが、身が引き締まる思いです。

見られつつある。その要因は少子高齢化社会、経済的な停滞、日本社会の枠組みの変化などとされてきて、なかでも継承者のいない放置された墓、無縁墓の増加。埋葬の自由(樹木葬、散骨など)、葬儀の自由、寺院後継者の減少等々、現在起きている寺と檀家の諸問題を提起され、自分自身に置き換えて、切実なお話しとして拝聴しました。

講演後、銀閣寺特別拝観。拝観後、銀閣寺近くの『白沙村莊』にて薬石懇親会。本山帰着後、開浴。その後、宗務総長様同席のなか、僧侶と研修生と車座になり「意見交換会」。研修生より兼務寺院の問題、壇那寺の管理・運営の話から本山への要望など発言が出ました。

就寝前、自主的に夜坐。

三日目、六時開静。六時三〇分朝課後、作務(方丈の廊下、棧拭き)。七時三〇分粥座。

八時三〇分、提唱。相国寺僧堂師家、小林玄徳老大師による法話『禅経験の勧め』。始めに一〇分間の坐禅。(老大師は結跏趺坐。研修生は椅子に座ったままで坐禅)一〇分の短時間でも息を整え、坐禅すると気持ち落ち着くもの

です。法話のなかで特に印象深かったお話しは、御岳山での大規模噴火による大勢の犠牲者が出たことを例に挙げ、ご遺族の一人の方がテレビ取材の中で御岳山の噴火を恨みに思いますとの発言から、老大師は過去の地震・津波・台風・豪雨など大災害の自然界の摂理には人間は無力であり逆らえない、恨むことは間違っている。いつ何時どんな災害に遭うかわからない、また被災された方の避難所生活がいかに大変か。このような研修会で、団体生活を経験することは必要なことであるとのことでした。また、老大師曰く「人生砂時計」。砂時計の砂は、最初はゆっくりと落ちてるように見え、最後になって来るとあつと言う間に落ちて行く。でも、砂の落ちる速度は最初も最後まで一緒である。

人生も後半過ぎると時の流れが速く感じるものだと。私自身六〇歳を過ぎ「人生砂時計」を肝に、これからの時間を大切に生きたいと思いを強く感じるお話しでした。

九時三〇分、坐禅。研修会最後の坐禅です。

一〇時、閉講式。研修生全員で読経の後、有馬頼底管長猊下のご垂訓。今回の研修会参加についての労いのお言葉を頂きました。また、佐分宗順宗務総長様より総評があり、修了証授与、記念撮影後、下山。あつという間の二泊三日の本山研修会でした。何事にも代えがたい体験をさせて頂き、本山相国会の教学部長矢野謙堂和尚様をはじめご指導頂いた和尚様方に感謝、また今回の研修会にお誘い頂いた壇那寺の南洲寺様感謝申し上げます。

合掌

平成二十六年(雪安居)  
相国僧堂 在錫者名簿

福島 (妙心) 忠教寺徒	阿邊宗寛	宮崎 (相国) 龍源寺徒	田中正明
和歌山 (妙心) 観福寺徒	足助厚堂	岐阜 (妙心) 萬福寺徒	興山元卓
京都 (相国) 慈雲院徒	中山真周	京都 (相国) 大通院徒	鈴木承圓
島根 (妙心) 海禅寺徒	園山大穰	京都 (相国) 大通院徒	大角宗純
京都 (相国) 瑞春院徒	須賀集信		



今般、本山教学部より機関誌『圓明』に何らかの原稿を掲載致したい旨依頼があり、渋渋承諾したものの、何分浅学非才の分限、立派な文章には遠く及ばず、せめて短篇詩の一編くらいであれば、締切り日に間に合やすことができるかと思ひ筆を持った次第である。

日頃法話会の後の質問などでよく出るのが「老師さんが、日頃日常生活の中で思ったり、考えたり、用心したり、いろいろ実践して居られる処をそのまま披露されたらどれほど益あることでしょうか。」という声も脳裏を過ぎり、詩集―仏道定款―(生死の問題への道しるべ)として投稿させて頂くことに相成りました。

時代は一層不安心の様相を呈し、今日禅の教えを拝聴し生活に実践して行きたいと求道して来られる衆生は増加にあり、この『圓明』誌が更に一層の仏縁の施しになって頂ければ報恩底、萬年山の喜びこれに優る物はないと信ずる処である。

## 第一条 人間時計

人間時計は砂時計。  
序盤、砂の減り方気付かない。



まるで青春時代。

人間時計は砂時計。

中盤、砂半分減つても、尚半分も残っているとしか感じない。



まるで課長時代。

人間時計は砂時計。

終盤、砂の激減の早さに、ようやく心配し始める。



まるで、夢の様に短い一生だった。

もっと仏教勉強しておけばよかった。

死にたくない。神様仏様助けて。

.....

人間時計の砂粒のまだ尽きないうちに目覚めよ。

## 「仏法」

——生死事大、光陰可惜、無情迅速、時不待人、謹勿放逸。

第一条の宗旨は、たちまち人生の砂粒は尽きてしまうぞよ。無駄に  
砂粒を落してはいないか。「人生に時間程大切な物はない。これはとり返し  
のない物で、最も大切に使わなければならぬ。」という教え——謹んで放逸なること  
勿れを、砂時計を使って表現し、最後の三角錐になると砂の減加減は容赦なく、  
無情迅速の風を吹き散らすのである。まだ砂粒の残っているうちに.....仏道。

佛道定款

—YOUR GUIDE FOR  
DEATH EDUCATION—

# 観音懺法会と白衣観音

立島敦子

今回は観音懺法会かんのんせんぼうえの儀式の順番・流れ(式次第)とその歴史についてふれました。今回は、この法会の本尊である観音菩薩について述べたいと思います。

観音懺法会の当日、中央に白い衣をまとい、手に蓮華の花をもって立つ観音が掛けられます。白衣を纏ったお姿から白衣観音と呼ばれる観音です。東福寺の画僧であった明兆あきあきの落款らくかんが入られています。その両脇に伊藤若冲いとうじくちゅうの描いた文殊菩薩もんじゅぼさつと普賢菩薩ふげんぼさつが掛けられますが、これは相国寺の観音懺法会かんのんせんぼうえにみられる独特の飾り方といえます。

さて、観音菩薩は、常に大慈大悲だいじだいひをもって十方国土じっぽうこくどに遊行し衆生を教化きょうげする菩薩で、観世音菩薩かんぜおんぼさつとも呼ばれます。一切衆生を救済し、慈悲をたれることを本願とする菩薩です。『華嚴経』けつんぎょう「入法界品」には補陀落山ふたらくらくに住むといわれ、『無量寿経』むりょうじゆぎょうでは勢至菩薩せいしぼさつと共に西方極樂浄土で阿弥陀仏の脇侍として教化を補佐するといわれます。『首楞嚴経』しゆりやうこんぎょう「円通章」えんつうぢやうにあることから円通大士えんつうだいしとも呼ばれています。観音菩薩は昔からとても尊敬され崇められた菩薩です。それは、人々が困ったときに様々な姿になって、人々を救ってくれ

ると考えられ信仰されてきたからです。そのため観音は実に様々な姿をしており、中には一見すると観音とはわからないお姿のものもあります。

まずスタンダードな姿は聖観音しやうかんのん 図1とよばれ、顔は一つ手は二本あり蓮華を持ち、他の菩薩と同じように冠をつけ、瓔珞ようらくと呼ばれるアクセサリで飾り、上半身は薄物の条帛じょうをまとい、下半身はスカートのような裙くんをつけていらっしやることが多いです。また、この姿で阿弥陀如来の脇侍として寄り添うことも多くあります。その時は手に蓮台れんたいを捧げ持つこともあります。

次にこの観音の頭上にお顔がたくさんあるものは十一面観音じふいちめんかんのん 図2と呼ばれます。さらに手をたくさん持つ観音は千手観音せんじゆせんかんにん 図3といわれ、手にそれぞれれの持物を持ちそれらを使って人々を救ってくれると考えられています。十一面観音は『十一面神呪心経』じふいちめんしんじゆしんじゆぎょうに千手観音は『千手千眼観世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼経』せんじゆせんかんにんせんじゆせんかんにんぜんぜんだいにえんまんむげだいひしんだらにぎやうにと



図1 聖観音菩薩立像  
MOA 美術館蔵  
「天平」展  
奈良国立博物館  
1998年より転載



図2 十一面観音立像  
奈良国立博物館蔵  
「東アジアの仏たち」展  
奈良国立博物館  
1996年より転載



図3 千手観音坐像 妙法院蔵  
「妙法院と三十三間堂」展  
京都国立博物館 1999年より転載

抵てい(または不空羅索ふくうけんさく・如意輪観音にょいりんが六観音として信仰されるようになります。

このように観音のそれぞれの姿にはその出典となる経典があります。次にこの観音の功德くどくをといた経典で一番有名なものが『法華経ほけきょう』二十八品のうち第二十五番目となる「普門品ふもんほん」です。別名「観音経」とも呼ばれます。ここには観音が三十三の形に変わって人々を救うととかれてあります。その姿は救う対象である人々の状況に合わせて変わるのだと考えられており、比丘身、比丘尼身など、いわゆるお坊さんの姿や尼さんの姿をしていたり、毘沙門身など仏法を守る守護神の姿をしていたりと様々です。

このように観音が人々の救済のために様々に姿をかえることを観音の「普門示現ふもんじげん」といい、その姿のことを応現身おうげんしんといいます。観音ほど様々な姿にかわる仏はなく、如何いかにに困難に直面した人々からもとめられ、信仰されてきたかということがわかります。

さて観音懺法会で掛けられる観音は白い衣をまとった白衣観音びやくわんおんとよばれる観音です。では、白衣観音とはどういう観音なのでしょう。この白衣観音については、『大毘盧遮那成佛神変加持经だいびるしやなむじょうぶつじんかじじょうぎ』に白处尊菩薩としてあらわれ、胎藏界曼荼羅には上半身はあらわで条帛をまとったいわゆる菩薩の姿で描かれています。

一方中国からつたわった唐本の図像として『覚禅抄かくぜんしやう』『别尊雜記べつそんざつぎ』といった図像集には頭から白い布をまといて手に柳枝や念珠を持つ姿もみられ、曼荼羅にみられる密教系の図像とは違った系統のものがあつたといえます。

白衣観音は現在、水墨で描かれた鎌倉時代後期以降のものが多くのことされています。そのため中国から禅宗が伝えられたこのころ一緒にもたらされたと考えられます。その当時大陸文化の一番の流行であった禅宗として、中国ではやっていた白衣観音図が同時代に日本に請来されたのです。そして、日本では白衣観音に対して観音の持つ慈悲じひの心、白衣に象徴される清澄せいじやうな境涯きやうがい、補陀落山中の清流岩上で思索しさくする冥想めいそうの世界が求道者ぐどうしやの理想の境地きやうちであると考えられました。特に禅僧が好んだと考えられてきました<sup>(i)</sup>。

明兆が描いた白衣観音は東京国立博物館に水墨の白衣観音(図4)、そして東福寺に衣を白に塗った大



図4 白衣観音図 明兆筆  
東京国立博物館蔵  
「禅寺の絵師たち」展  
山口県立美術館 1998年より転載

(i) 衛藤駿「禅宗絵画としての白衣観音図」『大和文華』68 1981年

きな白衣観音図<sup>(図5)</sup>があります。この白衣観音図をほぼ三十三幅使って描いた三十三観音図も同じく東福寺にあります。(その後、白衣観音をふくむ三十三観音は江戸時代に『仏像図彙』という書物にまとめられ、現在ではこれをとって三十三観音としています。しかし、これは実は出典があまりよくわかっておりません。江戸時代に便宜的に編纂されたものと考えられます。)

実は、この白衣観音図は禅僧にとつては、理想の姿・特別な存在と考えられていた観音でした。こうした禅僧の白衣観音の認識を、私たちは当時の賛がはいった白衣観音図や禅僧の語録からみることができます。

例えば明兆の白衣観音図<sup>(図4)</sup>はひっそりと水辺の石の上に静かに佇む白衣観音の上に健中清勇の賛があり、それは「観音大士は仏の教えを聞き思惟し修行を積んで悟りの境地に入られた、しかし悟りの流れに乗ることなく、そのままの姿で耳根円通の境地を体得されたのである。(後略)」<sup>(ii)</sup>という内容です。さらに、禅僧の語録をみていくと、東福寺の聖一派の乾峰士曇の語録に「三十二身唯一相、重重脳後発光輝、琉璃瓶裏□春浪、



図5  
白衣観音図 明兆筆 東福寺蔵  
同図録より転載

操尺悲糸糸柳結糸糸楊柳青眼、蕨薇撃紫拳、円通真正体、莫認海南辺」とあり、三十二の姿が一つの姿に現されていること、その姿は頭光が光り輝いており、(中略)円通の正体が南にある補陀落山に住する観音であるとのべています。ここで気になるのが三十二身という言葉です。実は当時の他の禅僧の語録などを丹念にみていくと、この三十二身という言葉が実に多く見られます。



図6  
伝明兆白衣観音図  
現在観音懺法会でかけている本尊

これは『首楞嚴経』に観音が三十二の姿をかえて衆生を救うと説かれているためで、「三十二身唯一相」とはこの三十二身の心身が唯一白衣観音の姿をしていたと捉えることもできます。

その目で、中尊の白衣観音<sup>(図6)</sup>をみると、その大きさからも、図様からも、法会の中尊として特別に作られたものといえるでしょう。それはまさに観音を掛けて法会を行う観音懺法会こそふさわしいといえます。

そして、観音懺法会で二年まえまで使用されていたのが文筆宗言筆三十三観音図<sup>(図7)</sup>です。これは中尊と同



図7  
三十三観音図 文筆宗言筆  
相国寺蔵



じ白衣観音で三十三幅作ら

れたもので、東福寺にある、  
明兆の描いた三十三観音〔図8〕

を忠実に写したものです。

そして白衣観音の下部に

『法華経』『普門品』に説かれ

た応現身の姿が描かれてお

り、三十三幅総てを並べることで、『法華経』に説かれる観音の応現身おうげんしんや功德を観音懺法  
会の参列者は漏れることなく見ることができるようになっています。

相国寺の観音懺法会が当初どのような仏画を掛けて修懺しゆせんしていたのかについては、詳細はわかりません。応永三年相国寺山門の建築および応永十四年の棟上の際に、観音懺法会が執り行われたことが「相国寺諸回向并疏」に記載されています。とくに十四年の法会ではおそらく通常山門に安置される観音と十六羅漢図の前で行われてたと考えられます。それ以降は宝徳三年（一四五二）から九年間蘭室妙薫が香華役を勤めた記録が確認できます。その後は後水尾上皇ごみずのおひだりこうが仙洞御所せんどうごしょで観音懺法会を行っており、それに相国寺僧が参加していたことが『隔冥記』かくめいきに多く見られます。伊藤若冲により動植綵絵が施入されるまでは白衣の三十三観音がかけられていた可能性が高いと考えられます。

禅僧の理想である修行によって到達する耳根円通じこんえんつうの境地を表した『首楞嚴経』の白衣

観音の思想を、上部の白衣観音であらわし、『法華経』の経文にある三十三応身を画面下部に描くことで二重にあらわしているといえるでしょう〔図8〕。さらに観音懺法会の本尊が白衣観音である理由の一端といえることができます。

これらを堂内に掛け巡らせ、中尊にはさらに大きな白衣観音を掛けることで、まさに今この場に観音を勧請お招きし、懺悔し礼拝することで救済されるといえる、観音懺法会にふさわしい室礼を実現したのだといえるでしょう。

### 立畠敦子

日本中世絵画史

一九九九年 九州大学大学院哲学・哲学科(美学・美術史)修了  
現 在 北九州市立小倉城庭園 主任学芸員

### ●研究業績

「初期水墨画の研究 瀬戸内地域の仏画を端緒として」

〔鹿島美術研究〕25 2008年11月

「東福寺蔵明兆筆三十三観音図に関する一考察」

〔九州藝術学会誌「デアルテ」26号所載 2010年3月

「観音懺法」その成立と発展に関する一考察」

〔花園大学国際禅学研究所紀要〕7号 2012年3月

など、禅林内における画僧・仏画について考察を続ける。



白衣観音

法華経普門品の三十三応現身

図8 東福寺蔵 明兆筆三十三観音図  
『禅寺の絵師たち』展 山口県立美術館  
1998年より転載

# 『いつも心にY君を』

演劇塾 長田学舎 齊藤浩未

電車の中や駅のホーム、コンビニの前などで座り込んでいる若者達を見て、(ハァー、最近の若者は・・・)なんて、自分の事は棚にあげたため息をついたりしていました。かつては自分も最近の若者は・・・なんて思われるような事をしていたのにもかわらず。かつては・・・? 今、立ち止まって考えてみた。いつの間に! 私、結構いい年齢になっています! そりゃ、疲れがなかなかとれないわけですね。鏡を見れば、こんな所にシミが・・・昨日までなかったのに! なんて事もあるわけです。又、劇団でも職場でも、新人や後輩に教育、指導をする立場にもなるわけです。今更、若かりし頃に戻りたいなんて思いませんが、もっと早くY君に会っていればなと思う時がありました。後輩はかわいい、私が教えた事を一生懸命やってくれと嬉しい、出来るようになるのもっと嬉しい。一人前に成長してくれたらとっても嬉しい。だけど、そう簡単にいかない時もある。

以前、私の指導についてこれなかった後輩がいました。彼女は社会人経験が少ないおっとりとしたお嬢さんでした。私は彼女のペースに合わせてあげる事が出来ず、彼女をとっても苦しめてしまいました。最近の若者は・・・と、彼女の事を諦めてしまったからです。彼女に対して大変申し訳ない事をしてしまいました。すでにY君に出会っていたのであれば、彼女を苦しめずにするのでしよう。

人に教育、指導をする立場でありながら、私はとても未熟でした。

私の家の近くに、品数が多く便利なスーパーが四軒もあります。中でも私はスーパーSによく行きました。理由は家から一番近いからだけです。買いたい物をカゴに入れ、レジに並んでお会計を済ませ、商品を袋に入れて帰る。普通のお買い物。「ポイントカードでもあったらな、結構お買い物していますよ！」なんて思いながら――。

その日もいつものようにお買い物。(そうそう、会社の買い物も一緒にしようっと)。レジに並んだ。(あ、レジに新しいアルバイトの子が入っている)。色白でひよろつとした男の子。髪を派手な金色に染め、眉を細く剃って整えている。(最近の若者って感じの子やなあ)って思いながらカゴをレジ台に置いた。

「すみません、これとこれレシートを別々にしたいので、お会計を分けてもらえますか？」(はいはい、面倒くさい事くらい解っていますよ、ごめんなさいねえ)と心の中で言いました。若者は面倒くさそうにレジを打つのだろうなと思ったからです。

ところが若者は「はい！こちらとこちら、お会計を別々ですわね！」と爽やかな笑顔!! しかも私が言った事を確認したのです!商品をポンポンとカゴに放り込まない、優しく扱いながらも素早い。お金の扱いは、・・・両手を使って丁寧! 「ありがとうございます!」

ええー!!

私はとても驚きました。へえ、見かけと違ってなかなか……いやいや、待て待て。接客業として当たり前的事ではないか。特別な事ではない。と思い直し商品を袋に入れようと……(あれ、カゴの中に袋が二つ入っている。少しの買い物だから袋一つでいいのに、別々について言ったから袋を二つ入れてくれてる！いやいやいやいや、たまたま二枚入ってしまったのかもしれない)。

若者の事を疑ったまま店を出た。

どれだけ若者に対して偏見を持っていたのでしょね、私は。でも、なんか、ちょっといい気持ちだった。

それから何日かして、またスーパーSに行った。商品を見て回っている。

「はい！かしこまりました！」となんと清々しい返事が耳に飛び込んで来た。そちらを見ると、あの金髪の若者だった。「かしこまりました！」という返事に驚きました。(若者！いい返事をするじゃないの！)若者は店長に床のモップ掛けを命じられ

たのでしよう。すぐさまモップを取りに行き、モップ掛けを始めました。お客様がいる所は静かにモップを滑らせ、いない所はしっかり磨く。テキパキと鮮やかに……。ほお……。つい見とれてしまった。あ、お買い物、お買い物と。

また先日のように、会社の買い物と自分の買い物、カゴに入れてレジへ。

(あ、金髪の若者、モップ掛けを終わってレジに入っている)。金髪の若者のレジに並ぶ。「すみません、これとこれ……」と私が言いかけた時、若者は「こちらとこちらのお会計を別々ですね」とまたあの爽やかな笑顔！

(まさか覚えていてくれる〜!!)

私は彼の名札をすかさずチェック！

名はY君！

素晴らしい！

もう、心の中で拍手喝采!!

もちろん飛び跳ねるような足取りで家路に着きました。

それからというものはスーパーSでお買い物をするのが楽しみになりました。Y君はいつも元気にテキパキと丁寧にお仕事をしています。ダラダラ歩かず、いつも私たちが稽古している芸商人の見習いさんのように常に小走りです。彼の後ろを通りすがろうものなら、振り返り「いらっしやいませ」とあの爽やかな笑顔で挨拶してくれる。

形、段取りでなく彼には彼の心が感じられた。そんなY君に敬意すら感じた。

それからはどんなにお客様が並んでいても、私はY君のレジに並びました。

スーパーSでお買い物をした帰りは必ず清々しくいい気持ちになれました。

(今日もスーパーSに行こうと。Y君いてはるかなあ)なんて期待しながら、お店に入る前からウキウキしていました。

ある時から段々、(今日はY君お休みかあ)と思う日が多くなっていました。(あれ?今日もない)。気が付けば1カ月・・・いや、2カ月ほど見てないだろうか。(どうしたのだろう・・・)。

季節は春・・・そういえば・・・金髪が黒髪になっていたなあ・・・。

そうか、Y君は就職されたのですね。

Y君ならきつとしっかりとお仕事をしてくれるでしょう。

寂しい気持ちはありませんでした。

むしろ私は期待に胸を膨らませていました。

そうだみんなY君なのだ。Y君になれる。

もう、最近の若者は・・・なんて諦めません。

私が導く努力をすればいいのです。これからの人達を。

Y君ありがとうございます。

あなたのお蔭で一つの道標ができました。

あなたは私の事を、よくお買い物に来るただの近所のお姉さんと思っっているでしょう、それでいいのです。私がこれから導いて

いく方々が、あなたと同じように誰かの道標となってくれる事  
があれば――。

私もまだまだ学ばなければいけない事が沢山あります。  
だから私は今日もスーパーSにお買い物に行きますよ。  
だってまた第二のY君に出会えるかも――。でしよう？

おさだ塾自主公演「春の小さな劇場」のお知らせ

### 『今昔亭春一番狂騒曲』

寄席「今昔亭」で練り広げられる笑いと涙の人間模様

日時／平成二十七年三月二十日(金) 午後七時～

二十一日(土) 午後二時～ 午後六時半～

二十二日(日) 午後二時～ 午後六時～

問い合わせ先／おさだ塾 電話・FAX(〇七五)二二一〇一三八

於・般若林(相国寺北門前町)

本山だより (平成二十六年七月～十一月)

### ○「京の夏の旅」特別公開

七月十二日より八月十日まで、京都市観光協会主催の第三十九回「京の夏の旅」に協賛し、法堂並びに方丈が特別公開された。平成二十四年の「京の冬の旅」に続く今回も本山参拝者は大変多く盛況であった。また同観光協会によると、相国寺を始め今回の「京の夏の旅」で公開された建仁寺塔頭や下鴨神社など全七カ所の総拝観者数は、過去最高を更新したとのことである。

### ○第六十一回 暁天講座

八月二日、三日の二日間、大方丈ならびに大書院において、第六十一回暁天講座を開催した。本年から四年ぶりに坐禅と講演の会場が方丈に戻った。午前五時半より受付を開始、初日は六時より坐禅、その後約一時間の講演。



「暁天講座」大方丈での坐禅



「文化財観賞と朝がゆ体験」で「喫粥偈」について話す矢野教学部長



前堂転位式

○前堂転位式  
九月二十一日、開山堂に於いて第一教区養源院（平塚景堂住職）徒弟の平塚景山師の前堂転位式が挙行された。師は大徳寺専門道場に修行された。今後の活躍が期待される。

○臨黄合議所理事会  
九月五日、臨黄合議所理事会が相国寺二階会議室において開催され、理事長を務める佐分宗務総長をはじめ臨済宗黄檗宗各山から宗務総長十五名が出席した。

二日目は講座後に本山墓地施餓鬼があったため、五時四十五分より坐禅、その後三十分の法話という時間割であった。両日とも大書院にてお粥が振る舞われ終了した。  
本年の講師には、初日は大藏流狂言師の茂山千三郎氏をお迎えし「日本と室町と狂言と」、二日目は有馬管長により「臨済禅師一一五〇年」という演題でそれぞれお話をいただいた。両日とも一二〇人を超える参加者があり、大変盛況であった。

○『文化財鑑賞と朝がゆ体験』開催

八月三十日、京都文化財団主催の『文化財鑑賞と朝がゆ体験』が昨年に続いて本山において開催され、事前申し込みの四十名が参加した。当日は朝七時四十分から矢野教学部長による講話、江上教学部員による坐禅指導、食堂での粥座、法堂と方丈の拝観案内という内容で、参加者は禅寺修行の一端を味わった。



有馬管長法話



茂山千三郎氏講演

拜塔偈は左の如し。

乾坤爽氣秋雲天  
萬里清澄比叡巔  
一句報恩拜祖塔  
馨香放出夢窓禪

### ○第一教区合同御親教

九月二十七日、平成十五年より各教区を順に巡教した有馬管長御親教の最終回として、第一教区各塔頭寺院の御親教が合同で本山の大方丈にて行われた。

当日は好天に恵まれ、三〇〇名を越える各塔頭檀信徒が参集し、午後三時より開式。有馬管長を導師に本尊諷経、開山諷経、各塔頭寺院檀信徒先亡諷経をしたのち、山内・山外塔頭計十五カ寺の住職や執事長に記念品が贈呈された。

続いて管長より世界平和と核兵器廃絶、命の尊さ、仏教の役割、お釈迦様の生涯やその教

え、臨済禅師と唐時代の禅についてなどの法話があった。法話後には、ある檀信徒より熱烈な賛同を得るといふ一幕もあり会場が和んだ。

佐分宗務総長の挨拶では、これまでの御親教を振り返ると共に、全国の本派各寺院檀信徒の皆さまの尽力に対して感謝を、そして管長をはじめこれまでの御親教に係わった関係者への慰労の言葉が述べられた。

矢野教学部長よりも、宗門における布教と教化活動について、十二年間におよんだ御親教終了をうけての各位への謝意を含む挨拶があった。

また相国寺総代・相国会会長の片岡匡三氏からは、第一教区檀信徒代表として謝辞を、小林玄徳相国僧堂師家(大通院住職)からは相国寺派全末寺全住職を代表し謝辞を頂戴し、管長を囲んでの記念撮影を行い無事終了した。

(巻頭カラー・22ページ特集など参照)

### ○二十六年秋期特別拝観

九月二十八日より平成二十六年秋期特別拝観を行い、法堂、方丈、開山堂が十二月十五日まで一般に公開された。

二十七年春期特別拝観は、三月二十四日から六月四日まで、公開場所は法堂、方丈、宣明(浴室)の予定である。

### ○上海玉佛寺覺醒師一行来山

十月四日、かねてより交流のある上海玉佛寺住職の覺醒師一行が来山した。来山時は、相国寺第二世春屋妙

葩<sup>は</sup>禅師の毎歳忌(普明忌)半斎厳修中ということもあり、法要にも特別に参加して頂き、その後有馬管長、佐分総長と昼食を囲み懇談された。



来山記念の墨蹟を贈呈する有馬管長



普明忌に参列し焼香する覺醒師



○第二十四回『円明』第一〇〇号発行記念

「相国会本部研修会」開催

十月十一日より十三日まで、第二十四回相国会本部研修会が行われた。今回は本誌『円明』が昨夏で第一〇〇号に達したのを記念し、通常の研修会より一日長い二泊三日として三年ぶりに開催された。

参加者の多くは各本派寺院の役員・総代で、第一教区より三名、第二教区より五名(引率和尚竹林寺牛江宗道住職)、第三教区より四名、第四教区より十六名、第五教区より八名、第六教区より三名の総勢で三十九名が参加した。

今回は記念研修会として坐禅の回数を増やすだけでなく、写経や就寝前には方丈縁側で夜坐も行った。矢野教学部長による法話、原田正俊氏(関西大学教授・相国寺史編纂室顧問)による講義、そして相国僧堂師家の小林玄徳老大師による提唱と、話を聞いて頂く機会も増えた。

また、初の試みとして二日目夜には研修生

山、他宗派寺院の順に入堂し、管長導師のもと出班焼香に引き続き楞嚴呪行導が厳修された。続いて、開山塔(開山堂開山像真前)にて諷経がなされ法要が終了し、参列者には大・小書院、裏方丈などに斎席が用意された。

また今回は、以前よりご提案を頂いていた相国会会員他列席者による「般若心経」諷誦を法要後に教学部で行い、相国寺総代、各相国会会長、総代各氏にご焼香をしていただいた。

管長香語は左の如し。

開山忌毎歳忌香語

照破昏衢現仏光 昏衢を照破して仏光現る

菊花昨夜報恩香 菊花昨夜、報恩香る

祖師心印三千界 祖師の心印、三千界

大地山河露堂堂 大地山河、露堂堂

頼底九拜

定中昭鑑

と僧侶との車座意見交換会も行われた。本山からは佐分宗務総長ほか若手僧侶も加わり、役員、総代としての思いや提案、要望、感想など多くの意見が出た。

閉講式では有馬管長より御垂訓をたまわり、研修生全員無事日程を終える事が出来た。次回は平成二十八年に開催の予定である。

(巻頭カラー・38ページなどを参照)

○開山忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が、十月二十日(宿忌)、二十一日(半斎)の両日にわたり厳修され、第四教区若狭より一〇四名寺院九名を含む)、第五教区出雲より四十二名(同寺院一名)、第六教区宮崎より二十五名(同寺院二名)の相国会会員の団体参拝があった。

二十一日は、九時より法堂において小林老大師導師のもと猷粥諷経にはじまり、諸堂焼香、奠供十八拜が行われ、引き続き檀信徒、総代、本派寺院、天龍寺一山、臨濟宗黄檗宗各本

○第三十四回寺庭婦人研修会

十一月五、六日の両日、第三十四回相国寺派寺庭婦人研修会が行われた。五日午後十二時





正式な「衣のたたみ方」を実演していただいた



一休寺田辺御住職の説明を拝聴する

半参集、一時より方丈で本尊・開山各諷経後、佐分宗務総長より開会挨拶、有馬管長より訓示をたまわった。記念撮影後、大書院にて教幹部員指導のもと坐禅を行った。

今回の講義は研修生が実践する形式とし、後藤新助法衣仏具店の後藤鑄次郎氏解説のもと「袈裟・法衣・白衣の扱い方」を社員により実演していただいた後、各自持参の衣を用いてたたみ方を学んだ。

翌日は朝の修了式後、京都府京田辺市の大徳寺派酬恩庵一休寺を訪問し、田辺御住職により境内諸堂、一休禅師の墓所、宝物館などをご案内いただいた後、精進料理を食した。引き続き宇治市の丸久小山園の槇島工場へ移動し、小山元治氏による茶の歴史解説と社員による抹茶製法の工程見学をした。

今回は各教区より次の二十一名が参加した。

◇参加者名簿(教区・台番順)

- 第一教区 澤 万里子・澤 洋子(林光院)
- 山木佐恵子・山木喜要子(普廣院)
- 久山順子(慈照院)
- 荒木寛子(光源院)
- 草場容子(慈雲院)
- 佐分厚子・佐分真希(豊光寺)
- 平塚久恵(養源院)
- 江上正子(眞如寺)
- 鈴木典子(長栄寺)
- 第二教区 中川弘美(大雲寺)
- 田中智津子(円福寺)
- 第四教区 石崎典子(海岸寺)
- 福場由紀子(感應寺)
- 第五教区 矢野志保(南洲寺)
- 第六教区 芝原由紀子・芝原聖子(感應寺)
- 松本三津子(光明寺)
- 松下知子(永徳寺)

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催  
(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、経典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場：相国寺 本山大書院

時間：午前九時より十一時迄

内容：坐禅(九時～十時半)

法話(十時半～十一時)

注意点：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

(電話〇七五―三三―三〇二)

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀：服装は、楽でゆつたりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

東京維摩会

平成二十七年の開催日は左記の通りです。

会場：相国寺東京別院・庫裡事務棟一階

有馬管長坐禅会

一月十七日(土)、二月十四日(土)、三月十四日(土)、四月十八日(土)

五月二十三日(土)、六月十三日(土)、七月十一日(土)、九月十二日(土)

十月十日(土)、十一月二十八日(土)、十二月十二日(土) (八月は休会です)

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

威儀：服装は、楽でゆつたりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服や

フード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

一月十日(土)、二月七日(土)、三月七日(土)、四月四日(土)五月十六日(土)、  
六月二十日(土)、七月十八日(土)、八月二十二日(土)九月十九日(土)、  
十月二十四日(土)、十一月二十二日(日)、十二月十九日(土)

時間：午後一時より二時半迄

内容：『臨濟録』提唱、坐禪、茶礼

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆつたりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧いただくか、相国寺東京別院(電話〇三三四〇〇一五八五八)までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 庫裡事務棟外観



TEL 03-3400-5858  
会場入口：前入口より50m南側  
会場：庫裡事務棟 1階  
〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

## 教区だより

### 第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講成相寺、

元伊勢籠神社参拝

毎年六月に大峰山おおみねさんに入峰修行する相国寺信心教社第一号連山組にて、光源院住職荒木元悦和尚は、住職就任以来昨年六月入峰で四十七回目の入峰修行を無事終えられると共に、光源院住職五十年目を迎えられる、ますます元気で喜寿を迎えられた。

平成二十六年六月十三日午前九時より、光源院行者堂において前行、道中安全、家内安全の祈願を、役員及び今回で七回目入峰による院号授与者の他多数の参拝者で行う。

翌日十四日午前六時、堀川今出川を貸切バス二台で新緑の大和路を一路奈良県吉野郡天川村の洞川とうがわに向かう。十時前に宿泊所である

洞川西村清五郎旅館に到着、早めの昼食弁当を取り、直ちに入峰に向かう。今年は晴天にめぐまれ、気温も高くなり入峰日和で、新客五名を先頭に山上に向かう。最初の大事な行場である「西の硯」も無事に終えた。新客は裏行場に向かい、その他の者は本堂に向かう。新客の行を終えて帰って来るまでの一時間ほど本堂にて待ったが、無事全員行を終え、そろった所で勤行する。参詣後各自全員下山し、食後旅館にて宿泊する。

翌十五日は午前五時半起床、六時に龍泉寺において新客全員と共に般若心経を唱えながら水行を行う。終って清五郎にて朝食を取り、龍泉寺へ参詣後、洞川を出発する。奈良平野の田園を見ながら、一路丹後路へ向かい、途中丹波にて昼食、休憩後成相山成相寺なりあいじと元伊勢籠神社このじんじやに参拝する。記念写真を取り終って天橋

立ホテルにて小宴、午後六時当ホテルを出発し、午後八時半堀川今出川に無事全員帰着、万歳三唱して目出度解散する。

◇成相寺(京都府宮津市)

真言宗単立

開基 慶雲元年(七〇四)真応上人

本尊 聖観世音菩薩

西国三十三所第二十八番札所

●成相寺の由来

一人の僧が雪深い山の草庵に籠って修行中、深雪の為、里人の来往もなく食糧も絶え何一つ食べる物もなくなり、餓死寸前となった。死を予感した僧は「今日一日生きる食物をお恵み下さい」と本尊に祈った。すると夢ともうつつとも判らぬ中で堂の外に狼の為傷ついた猪(鹿)が倒れているのに気付いた。僧として、肉食の禁戒を破る事に思い悩んだが、命に代えられず決心して猪(鹿)の

左右の腿をそいで鍋に入れて煮て食べた。やがて雪も消え里人達が登って来て堂内を見ると、本尊の左右の腿が切り取られ鍋の中に木屑が散って居た。それを知らされた僧は観音様が身代りとなって助けてくれた事を悟り、木屑を拾って腿につけると元の通りになった。此れによりこの寺を成合(相)と名付けた。(寺の説明書より)

○光源院住職 荒木元悦師 在職年数五十年表彰  
十二月八日、成道会の法要後、光源院住職荒木元悦師の住職在職五十年の表彰が行われ、有馬管長より賞状と記念品が授与された。

師は昭和三十九年九月に住職に就任し、以後半世紀にわたって同院の経営、護持発展に尽力されてきた。昭和五十一年には住持職の法階を稟承(りんしょう)され、昭和五十九年より平成十一年までは慈照寺執事長、続いて同十一年より十四年までは本派宗務総長としても本派の運営に長く携われ、現在は一般財団法人「萬年会」理事長に就かれています。



大峰山 成相寺 籠神社 平成26年6月14日入峰 連山組 57名



有馬管長より表彰される荒木元悦師

第二教区

○相国会支部総会

六月二十八日午前十一時より、京都市左京区

大原の智蔵院にて二十六名が参加し、第二教区相国会支部總會の例会が開催された。同院は大原の高台にあり、比叡の山容が美しく見渡せるすばらしい環境の中にある。

今回の總會の議事内容は、役員改選と『円明』第一〇〇号発行記念の相国会本部研修会への参加の呼びかけであった。この呼びかけ後、六名の参加申し込みがあった(最終参加は五名)。総会後には、隣接の公民館で懇親会が行われ、寺庭婦人及び多くの方々による会への協力、尽力をいただいた。

#### ○『円明』第一〇〇号発行記念

##### 第二十四回相国会本部研修会

当教区からは、五名の相国会会員がこの研修会に参加し、修行研鑽に励み、貴重な体験をさせていただいた。

今回は、坐禪に始まって坐禪に終わった研修会で、禪宗の研修会は「かくありたし」と感じた次第である。

宗務総長職に就かれるなど、本派の運営にも大変長く携わってこられた。

和田新命住職は、昭和四十六年生まれ、同志社大学卒業後、相国僧堂にて研鑽を積み、同寺副住職に就任後は宗務本所部長などを経て、現在鹿苑寺執事の職にも就かれている。

閑栖和尚様が、半世紀以上にわたって護ってきた是心寺の法灯を継承すると共に、更なる同寺発展が期待される。

(巻末カラー114ページ参照)

## 第四教区

### ○若狭相国会 役員会

七月五日、第三回教区寺院巡りを開催した。相国会役員が第四教区寺院を知る目的で、浜町東部地区寺院九カ寺を回った。今回で、第四教区寺院全二十九カ寺全てを回り終えた。後日、懇親会にて会員交流を行った。

○是心寺 退山式ならびに和田賢明住職晋山式  
十一月十六日、午前十時より京都市左京区岩倉の是心寺に於いて、同寺第十二世長尾守峰閑栖和尚の退山式と第十三世和田賢明新命和尚の晋山式が挙行された。

有馬管長猥下のご光臨を仰ぎ、相国僧堂小林玄徳老大師、光雲寺田中寛洲老大師、南禅寺派南陽院の鈴木正澄師をはじめ第一教区一山、第二教区各寺、縁故寺院および檀信徒の皆様方が見守る中、盛大かつ厳粛に執り行われた。当日は、秋の好天に恵まれ、式前には十数名のお稚児さんと共に安下所あんげしょより寺の山門まで新命住職の行列がなされた。

退山された長尾閑栖和尚は、昭和三十一年に同寺住職に就任されて以来五十五年もの間、護持発展に尽力され、その間に書院新築、山門再建などの諸堂整備をされた。また、師は相国寺の声明をはじめとする諸行事の伝統的な法式に精通し、その指南役としても多くの教導をされたほか、平成二年から九年間、相国寺派

### ○宗務支所 支所会

七月十七日、支所会を正善寺に於いて開催した。お盆行事調整及び第二十四回相国会本部研修会、本山開山忌団参について協議した。

### ○若狭相国会 役員会

八月五日、若狭相国会役員会を正善寺に於いて開催した。第二十四回相国会本部研修会出席の交通手段等の打ち合わせを行った。

### ○寺院婦人会 奉仕活動

九月十九日、おおい町の特別老人ホーム楊梅苑で、入所者の衣服の繕いなどの奉仕作業を行った。

### ○宗務支所 支所会

九月二十九日、支所会を正善寺に於いて開催した。本山開山忌団参の参加者集計等を協議した。

○若狭相国会『円明』第一〇〇号発行記念  
第二十四回相国会本部研修会

十月十一〜十三日、相国会会員十六名が参加。二泊三日の充実した内容で、本山とご縁を頂き実のあるものとなりました。

○宗務支所 開山毎齋忌団体参拝

十月二十一日、相国会会員九十五名、住職九名合計一〇四名参拝。本山法要参拝後、昼食を済ませ京都国立博物館にて鑑賞。初めての試みでしたが、秋の良い一日になりました。

○寺庭婦人会 第三十四回本派寺庭婦人研修会  
十一月五〜六日、寺庭婦人二名参加した。

## 第五教区

○出雲相国会親子坐禅会

七月二十八日に「夏休み親子坐禅会」を東光



元気いっぱいな子供たち

寺で開催した。親子六十三名、世話人二十三名、総勢八十六名の参加があった。富田寺和尚、西光院和尚の指導で坐禅をしたのち、「白隠禅師坐禅和讃」を唱和し、参加証が子供に渡された。のちビンゴゲームで楽しんだ。



親子坐禅会

○本山「開山忌」団体参拝

例年通り、十月二十一日の本山開山夢窓国師毎歳忌に合わせ、団体参拝を行った。相国会参加者は四十一名。二十日はアベノハルカスに寄り京都

の宿で宿泊。

二十一日は法堂での開山忌法要に列席し、最後に相国会檀信徒一同で「般若心経」を唱えた。初めての試みであったが、参加者は感激されていた。のち方丈で精進料理を美味しく頂いて、



本山開山忌法要に列席

承天閣美術館を見学し退山。キリンピアパーク神戸に寄り帰路に着いた。

## 第六教区

### ○光明寺退山式

十月十八日、光明寺(鹿児島市)では、松本憲融和尚の退山式、並に昭憲和尚の晋山の儀が、大本山より有馬管長猥下、矢野教学部長、布教師会より平兮前会長(福岡県東福寺派乳峰寺住職)等の有縁の寺院方多数が随喜されて厳修された。

憲融和尚は、昭和四十五年十月に同教区の宮崎県串間市永徳寺より転住され(当寺は南洲寺草牟田別院と云つ



退山した松本憲融閑栖和尚(左)と昭憲新住職(中央)



光明寺退山式記念撮影

ていた)、管長の天津樞堂老師が寺号を「光明寺」と命名され、新たに住職に就任された。

爾来、四十五年の間に檀信徒への布教、教化に専念され、境内には納骨堂、鐘楼、本堂庫裡等の諸堂を順に整備されてきた。又、第六教区の宗務支所長、宗会議員、そして布教師会の副会長等もつとめられた。

同時に晋山された昭憲和尚は、昭和四十二年生まれ、花園大学卒業後、相国僧堂にて研鑽を積まれ、平成六年に副住職に就任された。同教区の若手の推進係として今後の活躍が期待される。

### ○良福寺晋山落慶式

十一月九日、良福寺(鹿児島県いちき串木野市)に於いて第八世住職近藤永進和尚の晋山式並びに本堂庫裡落慶式が挙行され、本山より佐分宗務総長、矢野教学部長、相国僧堂より韜光室小林玄徳老大師、縁故寺院、新命同参僧侶、教区寺院などに御出頭、御随喜頂いた。

当寺は、平成七年に先住兆祥和尚が遷化されてから、藤尾金男総代をはじめとする各総代、檀信徒の皆さんが故兆祥和尚の悲願であった良福寺移転計画の実現のために邁進され、境内地の確保、本堂、庫裡、納骨堂などを美事に完成成就された。

当日は、檀信徒他五百名程の多くの出席者が見守るなか、旧寺跡地より新寺まで稚児八十二名を伴った晋山行列から始まり、落慶法要では韜光室老大師導師のもと「大般若経」転読祈祷が盛大に厳修された。式の最後には、本堂庫裏の落慶に貢献された熊本の黄檗建設株式会社社長の黄檗賢二様へ本山より感謝状が授与された。

新任職は、昭和五十九年生まれ。正眼短期大学を卒業後、相国僧堂にて修行され、平成二十二年に同寺住職に就任された。

新任職、檀信徒一同、今後の護持発展への思いを新たにす式となった次第である。

(巻末カラー115ページ参照)



本年度の教化活動委員会研修会は、洗建駒澤大学名誉教授の座談会を次の日程で実施致しました。

第一回 平成二十六年七月二十八日(月)午後二時打合せ、三時～五時(公開収録)

「西欧における(宗教―国家)関係の過去と現在」

第二回 平成二十六年八月二十五日(月)午後二時～五時(公開収録)

「明治期日本の宗教と国家」

国家神道体制下の宗教政策

宗教団体の近代化―自治の確立過程とその変遷

第三回 平成二十六年十月二十六日(日)午後一時～五時(公開収録)

「明治、大正、昭和戦時期日本の宗教と国家」(前回の続き)

国家神道体制下の宗教政策及びその変遷

宗教団体の近代化―自治の確立過程とその変遷

第四回 平成二十六年十一月十九日(水)午後一時～五時(公開収録)

「戦後期日本における宗教政策」

戦後における宗教法人法成立―文化庁宗務課とウッダード

第五回 平成二十六年十二月二十二日(月)午後十二時～四時三十分(公開収録)

「古都税問題(第三次文化観光施設税)と京都仏教会」

宗教法人法改正とその後の宗教政策

◆今後の予定

第六回 平成二十七年一月 日時未定

「宗教法人法改正とその後の宗教政策」

宗教法人法の問題

宗教課税の問題

公益法人制度改革での公益性と宗教との関係

参加者 洗 建 駒澤大学名誉教授

田中 滋 龍谷大学教授

田中 治 同志社大学教授(第三回以降)

津村恵史 中外日報社取締役東京本社代表兼論説委員長

藤田和敏 相国寺史編纂室研究員

長沢香静 京都仏教会事務局長

佐分宗順 相国寺派宗務総長

この『座談集』は、中外日報社の協力を得て、単行本として出版の予定です。古都税問題以来、相国寺は京都仏教会とともに、景観問題、改悪された宗教法人法の問題など様々な宗教と政治に関わる問題を研究し、議論を尽くし、宗教者として発言し、運動を展開して参りました。これらの歴史は、同じ過ちを繰り返さないためにも、後世に伝えていかなければなりません。『座談集』は、我々の運動を支えて下さった学者の方々とともに、これまでの経験と知識、我々の運動の意味を検証するものです。



洗 建氏を囲んで行われた座談会

これまでに行った研修会の講義録を  
ご希望の方は、手数料一千元を添え、  
下記の相国寺宗務本所内教化活動委員  
会宛にお申し込みください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五―二三一―〇三〇一

FAX〇七五―二二二―三五九一

ホームページ(<http://www.shokoku-j.jp>)

## 相国寺史編纂室（へんさんしつ）だより ― 史料（古文書）調査 ―

相国寺史編纂事業では、相国寺山内に所蔵される史料（古文書）の調査を進めています。これまでに、相国寺文書・鹿苑寺文書・慈照寺文書について目録の作成が終了しており、五万点以上の史料を確認することができました。今回は、この三カ寺に所蔵される史料について簡単に紹介します。

相国寺文書は、総点数一万四九三点です。昭和五十九年に思文閣出版から刊行された『相国寺史料』の記事の原本であり、江戸時代の相国寺を知るための基礎史料である「参さん暇が察が日記」（参さん暇がとは、現在の宗務総長にあたる）が代表的なものです。

鹿苑寺文書は、総点数三万九〇七四点です。明治以降の史料がほとんどであり、昭和期の住職村上慈海長老（一九〇二―一九八五年）の日記である「看雲亭日記」や金閣再建関係史料などが注目されます。

慈照寺文書は、総点数二四四二点です。江戸時代の門前町に関わる史料などが残されています。

今後は、山内塔頭（たつもと）が所蔵する史料の調査を進めていきます。来年度中には一山すべての調査を終了する予定です。

<p>大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 (株)北村誠工務店</p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571</p>	<p>〒604-8356 京都市中京区大宮通錦上ル 電話〇七五八二二一三八七二</p> <p>精進料理 上 常</p>
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>庭園 設計・施工</p> <p>樋口造園(株)</p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>御法衣・仏具</p> <p>(株)後藤利法衣店</p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587</p>
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>精進料理</p> <p>矢尾治</p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 <a href="http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp">http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp</a></p>	<p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 設計・施工 数寄屋建築</p> <p> 澤甚株式会社 澤野工務店</p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775</p> <p>山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)</p>
<p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達</p> <p>後藤新助法衣仏具店</p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075) 462-3915番 ファクシミリ (075) 462-3616番 URL <a href="http://www.rinzai.jp">http://www.rinzai.jp</a> E-mail: <a href="mailto:rinzai@rmail.plala.or.jp">rinzai@rmail.plala.or.jp</a></p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>藤安田念珠店</p> <p>〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 TEL (075) 221-3735 FAX (075) 221-3730 <a href="http://www.yasuda-nenju.com/">http://www.yasuda-nenju.com/</a></p>

<p>創業明暦年間</p> <p> 七味家</p> <p>〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352</p> <p>ゴヨウハシチミヤ</p> <p><b>0120-540738</b> 9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00) <a href="http://www.shichimiya.co.jp/">http://www.shichimiya.co.jp/</a></p>	<p>夢のある空間づくりのパートナー</p> <p> TOTAL DISPLAY FUSHIMI KOHGEI 株式会社 伏見工芸</p> <p>[本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地 TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465</p> <p>[宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地 TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254 e-mail: <a href="mailto:fushimi@d1.dion.ne.jp">fushimi@d1.dion.ne.jp</a></p>
<p>税理士 奥谷昌雄</p> <p>税理士 内藤 誠</p> <p>〒602-8026 京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地 TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461</p>	<p><i>Future Active Alliance</i></p> <p>office やまと</p> <p>パソコンからネットワーク・サーバ構築まで IT環境のトータルアドバイザー</p> <p>本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土屋ノ内町19-13 TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494</p> <p>中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺16丁目29-62 TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0770 E-Mail: <a href="mailto:info@office-yamato.net">info@office-yamato.net</a></p>
<p> TDS</p> <p>社寺の電気、空調、防犯、防災設備</p> <p>有限会社 土橋電気設備</p> <p>〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4 まちゃまちゃ 105号 TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332</p>	



ANA  
CROWNE PLAZA  
KYOTO

世界の歴史都市、  
京都の中央に位置し、  
世界文化遺産「二条城」の前に佇む  
ANA クラウンプラザホテル京都。

## ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前  
Tel 075-231-1155  
www.anacpkyoto.com



大本山相国寺御用達  
社寺庭園・町屋庭園・露地庭  
作庭 管理

**植昭** 長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3  
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

## ADACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045  
京都市南区東九条西明田町34-21  
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767  
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

## 印刷を極め、印刷を超える



**ヨシダ印刷株式会社** 関西支店 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572 [滋賀本社] 〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1 TEL.076-241-2141 (代)  
TEL.075-252-5421 (代) FAX.075-252-5423 [東京本社] 〒1130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL.03-3626-1301 (代)  
URL: http://www.yoshida-p.jp/ E-mail: info@yoshida-p.co.jp [営業所・工場] 大阪・富山・福井・江東船岡



なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…  
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 **京都銀行**

<http://www.kyotobank.co.jp/>

# JTB

感動のそばに、いつも。

**(株)JTB西日本 団体旅行京都支店**

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町167 NBF四条烏丸ビル2F

TEL. 075(284)0173 FAX. 075(284)0175

担当：酒井 健次（営業時間 9:30～17:30 / 土・日・祝日休業）

大切な資産を、ご家族へ確実につなぐために。  
生前贈与や万一の備えが簡単にできる三菱UFJ信託銀行の商品を  
どうぞご利用ください。

**元本保証・管理手数料無料**

相続の準備に、簡単・確実な方法があります。



遺贈贈与信託  
「おくるしあわせ」



教育資金贈与信託  
「まごよるこぶ」



相続型信託  
「ずっと安心信託」

ご質問はこちら

 **0120-06-4087** ご利用時間 / 平日・土・日  
9:00～17:00(祝日等を除く)

 **三菱UFJ信託銀行 京都支店**

お申込みはこちら

TEL. 075-211-7161 京都府京都市下京区四条通高倉屋入立売中之町55

電話受付/平日9:00～17:00(土・日・祝日等を除く)

[www.shoyeido.co.jp](http://www.shoyeido.co.jp)



# 香



大本山相国寺御用達

香老舗 **松紫堂**

京都本社 / 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595

東京支店 / 東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969

札幌支店 / 札幌市中央区南8条西12丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薫々 嵐山香郷 大坂本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店



先人たちの賜物を伝えていく仕事。

デジタル再製画「伝匠美」 www.dnp.co.jp/denshoubi/

**DNP**

大日本印刷株式会社 www.dnp.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

## 橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側  
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式  
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん  
**浩悦庵**

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地

TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022

東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com

http://www.koetsuan.com E-mail:office@koetsuan.com

抹茶

全国並びに関西茶品評会第一位  
白園茶 農林水産大臣賞 29回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年乃御筆

御濃茶 常光



大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地  
お問い合わせ(0774)210・0909  
お問い合わせ(0774)210・0909  
地下一階 抹茶コーナー  
\*西洞院店 茶店「元庵」水曜休館  
\*京都市中京区西洞院通御池下ル  
電話(075)213・0909  
【お取り扱い】全国有名茶店・茶道具店  
http://www.marukyu-kojamaen.co.jp

臨濟禪師1150年・白隠禪師250年遠諱「禅—いまを生きる—」

# 報恩坐禅会

臨濟禪師・白隠禪師の遠諱を記念して、平成27年3月から5月にかけて全国各地の臨濟宗・黄檗宗の本山、専門道場にて、一般を対象にした報恩坐禅会を行ないます。

静寂な場所で雲水(修行僧)とともに坐り、身体や呼吸、心を調え、本当の自分を見つめ直しませんか。複数の道場の坐禅会に参加することも可能です。

この機会にぜひともご参加ください。

## 臨濟禪師・白隠禪師報恩坐禅会のご案内

■開催場所 ●実施日 ▲定員

- 【関東】**
- 平林僧堂 ●3月24日(火) ▲40人 埼玉県新座市野火止3-1-1
  - 広園僧堂 ●3月1日(日) ▲30人 東京都八王子市山田町1577
  - 向嶽僧堂 ●3月15日(日) ▲30人 山梨県甲州市塩山上於曾2026  
※建長寺と円覚寺は、通常行なっている宿泊坐禅会に“遠諱報恩坐禅会”の冠をつけて開催予定
- 【中部】**
- 龍澤僧堂 ●5月2日(土) ▲45人 静岡県三島市沢地326
  - 方広寺 ●3月14日(土) ▲50人 静岡県浜松市北区引佐町奥山1577-1
  - 妙興僧堂 ●4月2日(木) ▲30人 愛知県一宮市大和町妙興寺2438
  - 徳源僧堂 ●4月21日(火) ▲30人 愛知県名古屋市中区新出来1-1-19
  - 瑞龍僧堂 ●3月22日(日) ▲40人 岐阜県岐阜市寺町19
  - 正眼僧堂 ●4月10(金)~4月11日(土) ▲50人 岐阜県美濃加茂市伊深町
  - 虎溪僧堂 ●4月5日(日) ▲40人 岐阜県多治見市虎溪山町1-40
  - 天衣僧堂 ●3月29日(日) ▲20人 岐阜県岐阜市野一色1-10-6
  - 国泰寺 ●5月24日(日) ▲100人 富山県高岡市太田184
- 【関西】**
- 妙心寺 ●3月14(土)~15日(日) ▲50人 京都市右京区花園妙心寺町36
  - 円福僧堂 ●3月28(土)~29日(日) ▲50人 京都府八幡市八幡福祿谷153
  - 南禅寺 ●4月29日(日) ▲60人 京都市左京区南禅寺福地町
  - 天龍寺 ●3月7(土)~8日(日) ▲30人 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町68
  - 相国寺 ●4月5日(日) ▲30人 京都市上京区相国寺門前町701
- 【中国】**
- 常栄僧堂 ●5月23日(土) ▲200人 山口市宮野下2001
- 【四国】**
- 大乘僧堂 ●5月25(月)~26日(火) ▲30人 愛媛県宇和島市吉田町立間
- 【九州】**
- 梅林僧堂 ●4月25(土)~26日(日) ▲100人 福岡県久留米市京町209
  - 万寿僧堂 ●5月18日(月) ▲100人 大分県大分市金池町5-4-2
  - 靈源禅堂 ●3月10日(火) ▲30人 長崎県長崎市平間町1646
  - 円通僧堂 ●4月18日(土) ▲20人 佐賀県伊万里市松島町148

- 参加対象18歳以上(外国人の方の受入は左記までお問い合わせください)
- 参加費1日/5千円(昼食付) 1泊2日/1万円(夕食・朝食付)、男女別相部屋  
※いずれも遠諱特別記念品が付きます。  
※集合場所までの往復の交通費と前泊の費用は含まれておりません。  
※持ち物は坐禅の出来る服装、白タオル、筆記用具、着替え、洗面道具等。

詳しくは遠諱大法会事務局まで TEL 075-811-5256 FAX 075-811-1432 Email: onki@rinno.net

### 【お問い合わせ・お申し込み先】

近畿日本ツーリスト(株) 京都支店

TEL (075) 221-7401(代) 担当 池田・東(あずま) 営業日・営業時間 平日 午前9時~午後6時

臨濟宗黄檗宗連合各派協議所 遠諱事業については <http://rinno.net/rinzai1150> にアクセスしてください。



鯨割烹  
たつみほし

祇園 白川 英橋畔  
静かな佇まいに  
せせらぎを聴く

〒605-0084  
京都府京都市東山区八坂新地清本町 371 番地 4  
電話 (075) 531-1184



皆さまのお役に立てる、

コインパーキング。

着実に、一步一步。

# キョウテク株式会社

本社

TEL 075-415-0100 FAX 075-415-0089

〒603-1843 京都市北区小山上総町10番地1キョウテク北大路ビル2F



法堂内部



浴室



法堂

# 相国寺 春の特別拝観

京都今出川 鳴き龍の寺

平成27年3月24日(火)～6月4日(木)

拝観時間…午前10時～午後4時 拝観場所…法堂・方丈・浴室

拝観料…一般・大学生 800円 65才以上・中高生 700円

※団体割引有り ※行事のため予告なく拝観休止または拝観場所を変更することがあります。

## ● 編集後記 ●

◇本派ご尊宿、並びに相国会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。『円明』第103号をお届けいたします。昨年も広島県の記録的短時間豪雨による被害、御嶽山噴火による登山者の被災をはじめとし、各地で痛ましい天災が発生しました。被災された関係各位におかれましては、あらためてお見舞い申し上げます。

◇昨年9月27日、「第一教区合同御親教」を本山において厳修しました。当日は300名を越す多くの各塔頭檀信徒の皆さまにお集まり頂き、12年間におよんだ「管長御親教」の最後を飾るに相応しい行事となりました。各塔頭寺院ご住職やご参加の檀信徒、関係者各位には大変お世話になり誠に有難うございました。

◇続いて既報のように10月11日より13日まで『円明』第100号発行記念「第24回相国会本部研修会」を開催致しました。お陰様で全教区から40名もの檀信徒に参加を頂きました。各教区の代表者からは感想文を寄稿いただき、重ねて御礼申し上げます。「御親教」「相国会本部研修会」の詳細は、巻頭カラーなどの誌面をご覧ください。

◇今回より相国寺専門道場(大通院)師家の小林玄德老大師より玉稿を賜ることになりました。誌面を通して読者の皆さまに、多くの御教導をしていただけるものと存じます。また立畠敦子氏には前号に続いて「観音懺法会」に関する考案を観音図・像を通して示して下さいました。

◇厳寒の砌、どうぞご自愛いただきますと共に、本年も大本山相国寺、相国寺派各寺院、相国会の諸行事、諸活動に対してご理解とご協力のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(矢野謙堂 記)

えん みょう 円明 平成27年正月号(第103号)  
平成27年1月1日発行(年2回)



編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591  
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail [kyogaku@shokoku-ji.jp](mailto:kyogaku@shokoku-ji.jp) (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN

### 【お詫びと訂正】

『円明』第102号掲載分に誤りがありました。  
右記のように訂正してお詫び致します。

52・56・75ページの佐々木契堂師晋山式関連記事  
(誤) 佐々木契道師 → (正) 佐々木契堂師  
9 ページ (誤) 進に → (正) 後進に  
20ページ (誤) 新命住職更 → (正) 新命住職更衣  
21ページ (誤) 大東和戦争 → (正) 大東亜戦争



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。



# 渡唐天神像 瑞溪周鳳贊

室町

菅君大唐に往かず、佛鑑扶桑に来たらず、

傳授無き處傳授有り、一朵の梅花遍界香ばし、臥雲周鳳拜贊

\*佛鑑||無準師範・南宋時代の禅僧。相国寺法脈の祖。

\*菅君||菅原道真。 \*大唐||中国。 \*一朵(えだ)

学問の神「天神さん」で親しまれる菅原道真が、その昔中国へ渡った、という故事に因んだ図。渡宋天神とも呼ばれる。

道真が大宰府で没して(九〇三年)、三百数十年経たある夜更け、博多崇福寺の住職円爾の枕元に天神が現れ、禅の要旨を問うた。そこで円爾が、自らの師無準師範に師事するよう勧める。天神は神通力を発し、その日の内に入宋して無準に参禅し、一夜にして大悟したと。そして、その礼を述べるため再度円爾の前に姿を現した。この折、本図の如く道服を着て一枝の梅花をたずさえていたと云う。

瑞溪周鳳(一三九一〜一四七三)は相国寺四十二世住持。塔頭慈雲院開山。文筆に秀で多くの著書を残している。なかでも日記「臥雲日件録」が著名。

作品解説/承天閣美術館 事務局長 鈴木景雲



菅君不往大唐佛鑑不來  
枝奈無傳處傳授有  
一朵梅花遍界香

卧雲周鳳拜贊

承天閣だより

Jotenkaku Museum



管長猥下が水墨美術館展示室で来賓に作品解説

# 「円山応挙と四条派展」開催

相国寺・鹿苑寺・慈照寺所蔵作品を中心に

於 富山県水墨美術館

平成二十六年九月十二日から十月二十六日まで富山市の「富山県水墨美術館」に於いて「水墨美術館開館十五周年記念・円山応挙と四条派展」が開催された。承天閣美術館に収蔵されている円山応挙筆「重要文化財 七難七福図全三巻」、「重要文化財 牡丹孔雀図」、長沢芦雪筆「獅子図屏風」等の名品。そして本山開山堂の応挙・応瑞筆の襖絵二十面が特別出品された。本作品はこれまであまり世に知られておらず、相国寺から出て展示されるのは初めてのことである。出品点数は約六十点で、



期間中三万人の絵画ファンが訪れ大いに賑わった。

水墨美術館とは平成二十二年に「江戸の粹・明治の技・柴田是真の漆×絵」展を承天閣と共同で開催。また平成二十四年には同館で「相国寺・金閣・銀閣名宝展」が開催された。この度の展観で三度目となる。開会式には管長猥下がテーブルカットと作品解説に出杖された。

現在の展観

## 「花鳥画展」室町・桃山・江戸、中国宋・元・明時代宮廷画壇の名品

～平成二十七年三月二十二日



花鳥画は中国で宋時代から盛んになりました。四季の樹木草花、燕・雀等の小鳥や鷹等の猛禽類。そして蜂・蝶のような昆虫、また犬・猫・鹿等の獣類を配した画も範疇に入ります。日本では南北朝から室町時代に禅寺で画僧による水墨花鳥画が多く描かれ、桃山期になると極彩色の屏風絵も多く画かれるようになりました。

江戸中期頃からは円山応挙や伊藤若冲等に代表される写生画が確立し、今日に至っております。ぜひ御高覧下さい。

承天閣事務局



良福寺へ向かう新住職や稚児の列

第六教区良福寺 第八世  
**近藤永進新住職晋山**  
 平成二十六年十一月九日



「晋山の偈」を唱える新住職



大般若転読祈祷



晋山式記念撮影

(教区だより99ページなどを参照)



是心寺へ向かう新住職一行

第二教区是心寺 第十三世  
**和田賢明新住職晋山**  
 平成二十六年十一月十六日

写真撮影：柴田昭雄氏



本尊や閑栖和尚と対峙



「晋山の偈」を唱える新住職



晋山式記念撮影

(教区だより87ページなどを参照)

とわ 永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

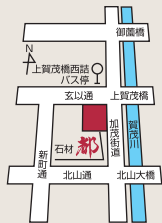


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間 / AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社 : 〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ  
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)  
工 場 : 京都市北区上賀茂神山 389 番 24 ヨクソ ヨイシ  
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)702-2440  
夜 間 : 京都市左京区岩倉南池田町 117 ヨクソ ヨイシ  
(洛北病院バス停前) 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

一心斯有恒 (章榮)

一心斯れ恒有り。

ぐらぐらと心が変わってはならぬ。  
心は恒ありて動いてはならぬ。

撮影◎教学部(相国寺開山塔)